

学部理念・目的・ポリシー

教育理念

福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成する。

教育目的

(1) 地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいつながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

(2) 社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的スキルを修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

(3) 保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

1. アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れ方針）

社会福祉学部は、地域の福祉課題に対応できる専門知識・援助技術を伴う実践能力を持ち、保健・医療・福祉などのさまざまな分野の関係者と連携できる社会福祉専門職の養成を目指しています。

したがって、社会福祉学部では、その実現にむけて、次のような人を求めています。

- ①高等学校で学ぶ基本的な科目の学力を有する人
- ②コミュニケーション能力、協調性、豊かな人間性をそなえている人
- ③熱意・意欲をもって、社会福祉専門職を志す人

2. カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

社会福祉学部では、全学部に通ずる「共通教養教育科目」と学部独自の「専門教育科目」を置いている。

共通教養教育科目は、「リテラシー科目」（外国語科目、情報科目）「教養基礎科目」「課題別教養科目」「健康・スポーツ科目」から構成されている。「課題別教養科目」の中では、土佐学や看護師などの他の保健医療福祉専門職との連携を学ぶことができる。

専門教育科目ではソーシャルワーカーとして相談援助を実践し行動するための知識・技能を基礎から高度な専門性を持つところまで学び、社会福祉士の国家資格取得を目指す。

第一段階では社会福祉領域の基礎を学ぶ。ここでは、「共通教養教育科目」と並行して「基本科目」（社会福祉入門演習、現代社会と福祉など）を履修することで、人文・社会・自然科学にまたがり幅広い知識を身につけると同時に社会福祉実践を学ぶ上での基礎を学ぶ。

第二段階では相談援助の基礎から実践までを学ぶ。ここでは、「社会福祉制度科目」（社会保障論、児童・家庭福祉論など）「相談援助基礎科目」（相談援助の理論と方法、面接技法など）「からだところの理解科目」（人体の構造と機能及び疾病、精神医学など）を履修することで、相談援助に必要な知識・技能を学ぶ。さらに、「相談援助実践科目」（相談援助演習、相談援助実習など）を履修することで、これまで学んできた相談援助の実践能力を演習・実習を通して養成する。また、介護福祉を併せて学ぶために「介護福祉理解科目」（介護の基本、介護過程）を履修する。

第三段階では社会福祉領域の専門性を発展させる。ここでは、「地域・国際福祉科目」（地域福祉論、国際福祉論など）「社会復帰支援科目」（ケアマネジメント論、就労支援サービスなど）を履修することで、相談援助を行う上での視点を広げ専門性をさらに高める。また、介護福祉士となるために「介護福祉実践科目」、精神保健福祉士となるために「精神保健福祉実践科目」を学ぶことで、専門的な視点を広げる。

3つの段階を貫くものとして「総合科目」（社会調査の基礎、社会福祉専門演習など）を設置しており、調査・研究という手法を通して科学的視点から地域の福祉課題を発見して解決できる人材、地域における福祉の担い手となる人材を育成する。また、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野において必要な知識・技能を学ぶこともできる。

社会福祉士国家試験受験資格取得を前提として、希望者は介護福祉士国家試験受験資格もしくは精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる（取得人数制限有り）。

3. ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

社会福祉学部では、共通教養教育科目と社会福祉学部専門教育科目を合わせて124単位以上（必修科目38単位と選択科目56単位以上）履修することにより以下の能力や技術を修得した学生に、学士（社会福祉学）を授与する。

（1）社会福祉に関する様々な分野で活躍できるようにノーマライゼーションを基本的視点として人権擁護などの価値観を身につけていること。

（2）多様化・複雑化する人々の福祉ニーズに対応して、その自立と生活の質の向上を支援するための専門的な知識や技術を獲得していること。

（3）社会福祉専門職として地域における福祉課題を科学的視点で捉え、問題解決できる能力を身につけていること。

（4）保健・医療・福祉の専門職と連携して支援を行う能力と、対象者のみならず地域から国際社会までを視野に入れて活動できる能力を身につけていること。

目 次

I. 2013年度を振り返る

1. 2013年度 社会福祉学部概括	1
2. 前山教授への名誉教授称号授与について	3
3. 2013年度 社会福祉学部主要行事	4
4. 2013年度 社会福祉学部時間割	5

II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）他

社会福祉学部 教員一覧（2013年度）	7
1. 杉原俊二	9
2. 田中きよむ	12
3. 長澤紀美子	16
4. 林美朗	19
5. 前山智	20
6. 丸岡利則	22
7. 宮上多加子	24
8. 黒田しづえ	26
9. 後藤由美子	28
10. 鈴木孝典	30
11. 西内章	34
12. 山村靖彦	36
13. 遠山真世	38
14. 西梅幸治	40
15. 鳩間亜紀子	42
16. 福間隆康	44
17. 三好弥生	46
18. 石川由美	48
19. 稲垣佳代	50
20. 加藤由衣	51
21. 鈴木裕介	53
22. 田中眞希	55
23. 二本柳覚	57
24. 橋本力	59

Ⅲ. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部 委員会体制一覧（2013年度）	61
1. 教 務 委 員 会	62
2. 入 試 委 員 会	63
3. 学 生 委 員 会	65
4. 実 習 委 員 会	67
5. 就 職 委 員 会	69
6. 広 報 委 員 会	70
7. 健 康 長 寿 セ ン タ ー	74
8. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	80
9. 総 務 ・ 予 算 委 員 会	82
10. 国 試 W G 活 動 報 告	84

Ⅳ. 学生を中心とした活動

1. 国家試験に向けての取り組み	86
2. 国 際 交 流	87
3. 学 外 イ ベ ン ト へ の 参 加	88
4. グローカルクラブ	89
5. 太 鼓 部	90
6. 池 手 話 サ ー ク ル	91
7. い け と べ ！	92
8. イケてるあいあい	93
9. ハ モ ☆ イ ケ	94
10. か ん き も ん	95

Ⅴ. 卒業論文題目一覧（2013年度）

編 集 後 記

2013年度 社会福祉学部活動概括

学部長 前山 智

1. 教員体制

- ・2013年度は退職者の後任2名が加わり教員数24名(ただし、9月末に助教1名退職)。
職位構成は教授7名、准教授5名、講師5名、助教7名。
担当分野構成は福祉基礎5名、社会福祉10名、介護福祉6名、精神保健福祉3名。

2. 教育

- ・カリキュラム構造の明確化、大学教育にふさわしい科目名称への変更、セメスター制に基づく科目の分割等を目的として、専門教育カリキュラムを改正。CAP制の検討。
- ・ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーを策定し、卒業生を対象とした学習到達度評価のアンケート調査を試行実施。
- ・国家資格取得のための3コース(介護・社会福祉、精神・社会福祉、社会福祉)に関するオリエンテーションを実施。
- ・8月から10月にかけて3回生と介護・社会福祉コースの4回生が相談援助実習を、精神・社会福祉コースの4回生が精神保健福祉援助実習を行い、2月に実習報告会、3月に実習先担当者を招いて実習連絡協議会を開催。
- ・介護・社会福祉コースの3回生が2回生の時から始めた介護実習が終了し、11月に介護実習連絡協議会に引き続き介護実習報告を開催。
- ・4回生の卒業研究では、5月に構想発表会、10月にポスター形式による中間報告会を経て、12月20日締切りで論文提出、発表会を2月に開催。

3. 研究

- ・研究成果としては著書14編、論文41編、学会発表13件。
- ・「高知県立大学紀要(社会福祉学部編)」第63巻に12編投稿。
- ・科学研究費は平成25年度2件採択で採択率13.3%、平成26年度16件応募し応募率80%。
- ・科研費や厚労省科研費を介した他大学教員との共同研究2件。
- ・若手研究者を育成するために研究費を職位に対して逆傾斜配分。
- ・教員1名が博士号を取得(博士号取得者数13名)。

4. 自己点検評価とファカルティ・デベロップメント(FD)

- ・自己点検評価資料として位置付けている「社会福祉学部報」第15号を作成・公表。
- ・研究面でのFD活動として学会・研究活動等報告会を3回開催。
- ・教育面でのFD活動として、学外の「2013年度社会福祉士養成校協会中四国ブロック教員研修会」、「2013年度精神保健福祉士養成校協会全国研修会」に参加。
- ・四国地区大学教職員能力開発ネットワーク(SPOD)の研修プログラム受講。

5. 入学生と2014年度入学試験

- ・4月に第16期生73名(県内出身30名、男子15名)が入学。
- ・推薦入試では、県内枠への志願者が27名(-6)で志願倍率1.4倍、全国枠は35名(-1)で3.5倍。両者とも、特に県内枠は出願者減少。
- ・一般入試では前期、後期日程とも出願者が減少し、前期日程が168名(-20)で志願倍率

2013年度を振り返る

- 4.8倍、合格倍率3.6倍、後期日程が126名(-33)で志願倍率25.2倍、合格倍率10.0倍。
- ・私費外国人入試に3名の応募があり、1名合格。
- ・新たに開始した社会人入試には5名の応募があり、1名合格。

6. 卒業生と就職状況

- ・3月に第13期生72名が70名入学定員のクラスとして初めて卒業。
- ・4回生の学年担当と卒業研究を指導するゼミ担当教員が連携して就活を支援。
- ・就職希望者70名の内70名(100%)の就職が4月末までに決定し、24名(35%)が県内に就職。
- ・就職先の内訳は、福祉施設37%、医療施設35%、社会福祉協議会12%、公務員10%、一般企業6%。

7. 3福祉士資格と国家試験

- ・国試対策WGが4回生に国家試験に関するオリエンテーションや個別面談、社会福祉士養成校協会の模擬試験を実施。
- ・4回生が1月初旬に恒例となっている国試合宿勉強会を実施。
- ・1月末に実施された第26回社会福祉士国家試験に67名受験して51名合格(合格率76.1% / 平均27.5%)、第16回精神保健福祉士国家試験に27名受験して23名合格(合格率85.2% / 平均58.3%、21名が社会福祉士国家試験合格)で、これまでの30名入学定員のクラスと同等の合格率を維持。
- ・既卒を含めた総合の合格率は、社会福祉士が68.3%で216校中11位、精神保健福祉士が78.8%で115校中15位。
- ・初めて17名が介護福祉士資格を取得(14名が社会福祉士国家試験合格)し、その内の12名(71%)が介護職に就職。

8. 地域貢献活動

- ・「社会福祉学部リカレント教育講座」として4講座を10月から12月に掛けて開催、延べ194名の福祉関係者等が参加。
- ・オープンキャンパスに140名参加し、前日の8月3日に開催した「高校生のための公開講座」には県外からの10名を含め44名(26校)の高校生が参加。
- ・「高知医療センターと高知県立大学との包括的連携に関する協定書」に基づき、高知医療センターの地域医療連携室と連携事業(社会福祉学部教員によるコンサルテーション)を実施。
- ・健康長寿センター体験型セミナーを看護学部・健康栄養学部と協働して実施。

9. 広報活動

- ・オープンキャンパスや進学相談会で配布する社会福祉学部の2013版パンフレット作成。
- ・3福祉士国家資格への対応や全国卒の推薦入試などを高校にPRするため、県外出身の1回生19名が夏休み期間中に出身高校を訪問。
- ・学部ホームページにより学部行事や学生の活動等を迅速に発信。

10. 国際交流活動

- ・タイにおいて実施している国際ソーシャルワーク研修はタイの政情不安により中止。

前山智先生に名誉教授の称号が授与されました

平成 26 年 4 月 21 日に、高知県立大学名誉教授授与規程により、社会福祉学部前山智教授に名誉教授の称号が授与されました。

前山智名誉教授は、1998 年 4 月に高知女子大学社会福祉学部開設時から 16 年間、本学教授として社会福祉学部および共通教育の教育に携わってこられました。さらに、2002 年 4 月から 6 期 12 年間にわたって学部長として、社会福祉学部の運営に多大なご貢献を頂きました。この間、精神保健福祉士養成課程および介護福祉士養成課程の導入、法人化・共学化および学部定数の倍増、学部棟改修と看護福祉棟の増設等、学部の発展段階においてご尽力頂き、常に教員の模範として、冷静かつ的確なリーダーシップを発揮されました。教育においても、共通教育における「コンピュータリテラシー」「情報と社会」等の科目、人間生活学研究科（修士課程）における「データ解析論」等の科目において、熱心に学生にご指導頂きました。また社会貢献の分野においても高知県社会福祉審議会委員長等を歴任され、地域福祉の充実に貢献されました。

授与式では、教育研究審議会委員や学部教員等関係者の同席のもと、学部を代表して宮上多加子学部長より名誉教授称号推薦理由の説明がなされ、南裕子学長から在職中の永年に亘るご功績および学部運営と共に大学運営に対するご尽力に対して感謝の言葉がのべられ、名誉教授称号記が授与されました。その後、同日夜に開催された学部歓送迎会では、前山名誉教授より開設当時から現在に至る学部の歴史についてご講話頂いた後、4 月末を以て退職される教授に対し、学部教員一同より心からの感謝を込めて花束等を贈呈いたしました。



南学長より名誉教授称号記を
受ける前山名誉教授

2013年度社会福祉学部の主要行事

4月	4日(木)	入学式(県民文化ホール、16期生73名)
	5, 8-9日	学生ガイダンス
	10日(水)	前期授業開始(～8月6日)
	20日(土)	新入生バスハイク(県立香北青少年の家)
	22日(月)	第1回教授会
5月	9日(木)	介護福祉実習(介護実習Ⅱ-①)報告会
	22日/29日(水)	卒業研究構想発表会Ⅰ/Ⅱ
	27日(月)	第2回教授会
6月	24日(月)	第3回教授会
7月	7日(日)	学年間交流会
	8日(月)	第1回学会・研究活動等報告会(学部FD)
	19日	介護福祉実習(介護実習Ⅰ)報告会
	22日(月)	第4回教授会
8月	3日(土)	高校生のための公開講座
	4日(日)	オープンキャンパス
	26日(月)	第5回教授会
9月	30日(月)	第6回教授会/第2回学会・研究活動等報告会(学部FD)
10月	1日(月)	後期授業開始(～2月19日)
	5日/12日(土)	第1回/第2回リカレント教育講座Ⅰ/Ⅱ
	28日(月)	第7回教授会
	30日(水)	卒業研究中間発表会
11月	2日(土)	第3回リカレント教育講座Ⅲ
	7日(木)	介護福祉実習連絡協議会/介護福祉実習報告会
	16-17日(土-日)	推薦入学試験(県内26+全国35名受験)/社会人入学試験(5名受験)
	25日(月)	第8回教授会
12月	7日(土)	第4回リカレント教育講座Ⅳ
	16日(月)	第3回学会・研究活動等報告会(学部FD)
	20日(金)	第9回教授会/卒業研究論文提出締切/国家試験受験激励会
1月	5-7日(日-火)	国家試験合宿勉強会(津野町葉山の郷)
	20日(月)	第10回教授会
	25-26日(土-日)	第26回社会福祉士国家試験・第16回精神保健福祉士国家試験(67・27名受験)
2月	3日(月)	第11回教授会
	13日(木)	相談援助実習報告会
	14日(金)	卒業研究発表会/4回生を送る会
	25-26日(火-水)	前期日程入学試験(143名受験)/私費外国人入試(2名受験)
3月	3日(月)	第12回教授会
	6(木)/7日(金)	精神保健福祉援助実習連絡協議会/相談援助実習連絡協議会
	12日(水)	後期日程入学試験(70名受験)
	19日(火)	卒業式(県民文化ホール、13期生72名卒業)
	24日(月)	第13回教授会

平成25年度 社会福祉学部 時間割 <後期>

	1時限			2時限			3時限			4時限			5時限			
	8:40～10:10	教員	教室	10:20～11:50	教員	教室	12:50～14:20	教員	教室	14:30～16:00	教員	教室	16:10～17:40	教員	教室	
月	1	英語コミュニケーションⅡD 中国語初級Ⅱ (介護)介護総合演習Ⅰ	揭示 池 A318 F110	英語コミュニケーションⅠD	揭示 揭示	揭示	土佐の自然と暮らし 土佐の歴史と文化	廣内ほか 橋尾ほか	大講義室 A318	(社会)社会福祉ふれあい実習	西梅ほか	E103	日本現代史 (清水)		A318	
	2	英語コミュニケーションⅡD	揭示 揭示	英語コミュニケーションⅠD	揭示 揭示	揭示	<(社会)面接技法> (介護)発達と老化の理解Ⅱ 福祉行政と福祉計画	杉原 宮上 田中き	観察室 F110 E103	(社会)精神保健福祉ふれあい実習	鈴木孝・稲垣・二本柳	F110				
	3	精神医学	林 E103	精神保健福祉援助技術各論	稲垣 E103	E103										
	4										福祉研究演習Ⅲ	担当教員		福祉研究演習Ⅲ	担当教員	
火	1	社会福祉論(※) 社会保障	鳩間 田中き A318 E103	現代社会と福祉	長澤 E102	E102	地球の科学 (介護)生活支援技術Ⅱ	大村・一色 後藤・田中真	A318 F110-介護実習室・ 入浴実習室	科学と人間 自然災害と防災の科学 (介護)生活支援技術Ⅱ	一色 大村 後藤・田中真	A318 大講義室 F110-介護実習室・ 入浴実習室				
	2	(社会)障害者に対する支援と障害者自立支援制度 (介護)障害者に対する支援と障害者自立支援制度	遠山 大講義室	社会調査の基礎	加藤・橋本 E103	E103	(社会)面接技法 (介護)介護過程Ⅱ	杉原 黒田	E103・観察室 家政実習室	(社会)相談援助演習 (介護)介護過程Ⅱ	西梅・鳩間・福間・遠山 黒田	E103・E103・観察 室・D222 家政実習室	(社会)相談援助実習指導 (介護)生活支援技術Ⅴ	西梅ほか 三好 F110	E102・E103・観察 室・D222 F110	
	3	(社会)障害者に対する支援と障害者自立支援制度	遠山 大講義室	福祉サービスの組織と経営	福間 大講義室	大講義室	(介護)面接技法 精神保健福祉援助実習	杉原 鈴木孝・稲垣・二本柳	E103・観察室 福祉調査実習室	(介護)相談援助演習 精神科リハビリテーション学	西梅・鳩間・福間・遠山 二本柳	E102・E103・観察 室・D222 福祉調査実習室	(介護)相談援助実習指導 精神科リハビリテーション学	西梅ほか 二本柳	E102・E103・観察 室・D222 福祉調査実習室	
	4						精神保健福祉援助実習	鈴木孝・稲垣・二本柳	福祉調査実習室							
水	1	対人関係論 (介護)生活支援技術Ⅲ (社会)相談援助の基礎と専門職	畠山ほか 黒田・田中真 丸岡 A309 F110-介護実習室 E102	(社会)相談援助の基盤と専門職 (介護)介護の基本Ⅰ	丸岡 黒田・田中真 E102 F110	E102 F110	情報と社会 住まいと健康と安全	風間 宇野	A318 A306	資源とエネルギー 健康スポーツ科学Ⅱ 健康スポーツ科学Ⅱ	大村 清原 (宮本)	A318 体育館 体育館	社会福祉特別演習Ⅰ	前山	D207	
	2	(社会)相談援助の理論と方法 (介護)相談援助の基礎と専門職	西梅・加藤 丸岡 E103 E102	(社会)相談援助の理論と方法 (介護)相談援助の基礎と専門職	西梅・加藤 丸岡 E103 E102	E103 E102	(社会)地域福祉の理論と方法 (介護)認知症の理解Ⅰ	山村 宮上	E103 F110	(介護)生活支援技術Ⅳ	三好・田中真・(川口) 家政実習室・F110	家政実習室・F110	(介護)生活支援技術Ⅳ	三好・田中真・(川口)	家政実習室・F110	
	3	精神保健福祉援助演習 (介護)相談援助の理論と方法	鈴木孝・稲垣・二本柳 西梅・加藤 観察室 E103	精神保健福祉援助演習 (介護)相談援助の理論と方法	鈴木孝・稲垣・二本柳 西梅・加藤 観察室 E103	観察室 E103	(介護)地域福祉の理論と方法	山村	E103	福祉研究演習Ⅱ	担当教員					
	4			事例研究法	西内 大講義室	大講義室								福祉研究演習Ⅲ	担当教員	
木	1	英語コミュニケーションⅢD 社会福祉基礎演習	揭示 丸岡・遠山・加藤・鈴木裕 E102・E103・観察室・ D222	英語コミュニケーションⅠD	揭示 揭示	揭示	倫理学 日本文学	吉川 東原	A306 A318	情報処理概論 哲学 生活論 ジェンダーとキャリア	名和 吉川 團野・川口・井本 鈴木哲	A319 A318 A320 A306	情報処理概論	名和	A319	
	2	英語コミュニケーションⅢD (介護)障害の理解Ⅰ	揭示 三好・林 F110	英語コミュニケーションⅠD	揭示 揭示	揭示	虐待防止論 (介護)介護の基本Ⅲ ケアマネジメント演習	杉原・橋本 後藤・田中真 鈴木裕	E102 F110 E103	(介護)介護の基本Ⅲ	後藤・田中真	F110				
	3									(社会)相談援助演習	西梅ほか	E102・E103・観察 室・D222				
	4									(介護)相談援助演習	西梅ほか	E102・E103・観察 室・D222				
金	1	(介護)介護の基本Ⅱ	黒田・後藤 F110	(介護)介護の基本Ⅱ (社会)高齢者に対する支援と介護保険制度	黒田・後藤 鳩間 F110 E103	F110 E103	(介護)生活支援技術Ⅲ	黒田・田中真・(荒牧)	F110-家政実習室 介護実習室	(介護)生活支援技術Ⅲ	黒田・田中真・(荒牧)	F110-家政実習室 介護実習室				
	2	(介護)介護総合演習Ⅱ	三好・田中真 E103	(介護)高齢者に対する支援と介護保険制度	鳩間 E103	E103	保健医療サービス	林	E103	(介護)ここからだのしくみⅡ	宮上・林	E102				
	3	精神保健福祉論	鈴木孝 E102	精神保健学	林 E102	E102	精神保健福祉援助技術各論	稲垣	E102	国際福祉論	長澤	E103				
	4															
集中講義 後期	科目名等		教員	開講月日												
	介護実習Ⅱ①		後藤・黒田・三好・田中真	揭示												
	地域福祉活動ⅡA～E		杉原・田中き・福間・二本柳	揭示												
	社会福祉特別演習Ⅱ		加藤由衣・鈴木裕介	揭示												
	社会福祉特別演習Ⅲ		二本柳寛・稲垣佳代	揭示												
	社会福祉特別演習Ⅳ		橋本力	揭示												
	精神保健福祉援助技術総論		鈴木孝・稲垣・二本柳	揭示												
	ジェンダーとキャリア		未定	揭示												

2013年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	杉 原 俊 二	博 士（医 学）	児 童・家 族 福 祉 論
教 授	田 中 きよむ	修 士（経 済 学）	福 祉 行 財 政 論
教 授	長 澤 紀 美 子	博 士（学 術）	福 祉 政 策 論／国 際 比 較 研 究
教 授	林 美 朗	博 士（医 学） 博 士（文 学）	精 神 医 学
教 授	前 山 智	博 士（工 学）	情 報 教 育／X 線 分 光
教 授	丸 岡 利 則	修 士（社 会 福 祉 学）	理 論 福 祉 学
教 授	宮 上 多 加 子	博 士（社 会 福 祉 学）	介 護 福 祉 論
准 教 授	黒 田 しづえ	修 士（人 間 科 学）	介 護 福 祉 論
准 教 授	後 藤 由 美 子	修 士（社 会 福 祉 学）	介 護 福 祉 論
准 教 授	鈴 木 孝 典	博 士（人 間 学）	精 神 保 健 福 祉 論
准 教 授	西 内 章	博 士（臨 床 福 祉 学）	社 会 福 祉 援 助 技 術 論
准 教 授	山 村 靖 彦	博 士（社 会 福 祉 学）	地 域 福 祉 論
講 師	遠 山 真 世	博 士（社 会 福 祉 学）	障 害 者 福 祉 論
講 師	西 梅 幸 治	博 士（福 祉 社 会 学）	社 会 福 祉 援 助 技 術 論
講 師	鳩 間 亜 紀 子	修 士（社 会 福 祉 学）	高 齢 者 福 祉 論
講 師	福 間 隆 康	博 士（マ ネ ジ メ ン ト）	福 祉 サ ー ビ ス の 組 織 と 経 営
講 師	三 好 弥 生	修 士（社 会 学）	介 護 福 祉 論

教育研究活動報告書（教員一覧）

助 教	石 川 由 美	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	稲 垣 佳 代	修 士（社会福祉学）	精神保健福祉援助技術論
助 教	加 藤 由 衣	博 士（福祉社会学）	社会福祉援助技術論
助 教	鈴 木 裕 介	修 士（社会福祉学）	医 療 福 祉 論
助 教	田 中 眞 希	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	二 本 柳 覚	修 士（福祉マネジメント）	精神科リハビリテーション学
助 教	橋 本 力	博 士（学 術）	高 齢 者 福 祉 論

杉原 俊二

Shunji SUGIHARA

○ 研究活動

（１）学術論文

（原著）※査読有り（１件）

1. 杉原俊二「自分史分析に関する一考察（X I）－うつ経験者のテーマ分析によるライフストーリーの生成」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』63, 1-20.（2014年3月）

（研究ノート、事例報告など）（14件）

1. 杉原俊二「うつとひきこもり経験者の『雑談療法』事例（１）－中学からの友人E君とその関係について（前篇）－」『質的研究法』85, 2-7.（2013年4月）
2. 杉原俊二「うつとひきこもり経験者の『雑談療法』事例（２）－中学からの友人E君とその関係について（中篇）－」『質的研究法』86, 2-7.（2013年5月）
3. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（９）－ある軍事研究者の語る沿岸警備隊－」『人間科学』47, 2-7.（2013年6月）
4. 杉原俊二「自分史分析の中での『雑談療法』事例（10）－ある軍事研究者の語る海上救難隊－」『人間科学』47, 8-13.（2013年6月）
5. 杉原俊二「うつとひきこもり経験者の『雑談療法』事例（３）－中学からの友人E君とその関係について（後篇）－」『質的研究法』87, 2-7.（2013年7月）
6. 杉原俊二「うつとひきこもり経験者の『雑談療法』事例（４）－大学からの友人M君とその関係について（前篇）－」『質的研究法』88, 2-7.（2013年8月）
7. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」事例（11）－ある軍事研究者の語るグアム島攻略戦－」『人間科学』48, 2-5.（2013年9月）
8. 杉原俊二「ある軍事研究者の告白（その２）－うつ回復期での軍縮会議と軍備計画を巡る『雑談』－」『人間科学』48, 6-11.（2013年9月）
9. 杉原俊二「うつとひきこもり経験者の『雑談療法』事例（５）－大学からの友人M君とその関係について（中篇）－」『質的研究法』89, 2-7.（2013年9月）
10. 杉原俊二「うつとひきこもり経験者の『雑談療法』事例（６）－大学からの友人M君とその関係について（後篇）－」『質的研究法』90, 2-7.（2013年10月）
11. 杉原俊二「うつとひきこもり経験者の『雑談療法』事例（７）－中高時代の恩師S先生関係について－」『質的研究法』91, 2-7.（2013年11月）
12. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（28）－牧師・大学教授Fの海外大学日本校講師時代（前篇）－」『人間科学』49, 2-7.（2013年12月）
13. 杉原俊二「8年に渡る会報編集と投稿を振り返るという自分史－『質的研究法』最終号に寄せて－」『質的研究法』92（最終号）, 2-5.（2013年12月）
14. 杉原俊二「4テーマ分析法による自分史分析（29）－牧師・大学教授Fの海外大学日本校講師時代（後篇）－」『人間科学』49, 2-7.（2014年3月）

（２）学会発表等（５件）

1. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた『うつ経験者』の回復期支援法（５）－研究のまとめと今後の展望－」第37回KJ法経験交流会（川喜田研究所）2013年6月8日
2. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた『うつ経験者』の回復期支援法（４）－第2回面

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

接の改良ー」日本家族研究・家族療法学会第30回大会（タワーホール船堀）2013年6月22日

3. 杉原俊二「『ひきこもり経験者』の支援法（1）ーセルフヘルプへの支援と自分史分析ー」第36回KJ法学会（川喜田研究所）2013年10月5日
4. 杉原俊二「どうする・どうなる格差社会ー『ひきこもり』を抱える家族の事例から」（シンポジウム）日本人間科学研究会第8回学術大会（大阪キリスト教短期大学）2014年1月12日
5. 杉原俊二「自分史分析（4テーマ分析法）の進め方ー技術とコツ」日本人間科学研究会第8回学術大会（大阪キリスト教短期大学）2014年1月13日

○教育活動

- (1) 学部：「児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度」「子育て支援論」「面接技法」「虐待防止論」（2年生）「相談援助実習指導」（2・3年生）「相談援助実習」「相談援助演習（事後実習）」（3年生）「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（4年生6名、3年生6名）「地域福祉活動Ⅰ・Ⅱ」（3年生19名）
- (2) 大学院 人間生活学研究科（修士課程）：「児童福祉論」「課題研究演習」（主指導2名）
- (3) 大学院 健康生活科学研究科（博士課程）：「児童・家族福祉論」「社会福祉学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（主指導3名、副指導5名）

○委員会活動

- (1) 学部
「教務委員長」「人事関係検討会委員」「自己点検委員」「総務委員」「予算委員」
- (2) 大学院 健康生活科学研究科
「入試委員」

○社会的活動

- (1) 社会活動
高知県社会福祉審議会 副会長
高知県教育委員会 スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- (2) 学会など
日本人間科学研究会 常務理事、KJ法学会 運営委員・編集委員、所属学会などの学会誌編集協力（査読者）
- (3) 講演など
平成25年度高知県児童福祉司講習会「児童福祉論」（8月28日、9月11日）、高知県社会福祉協議会研修「児童虐待」（8月20日）、高知県難病連ピアカウンセリング研修（10月12日、11月30日、1月18日）

○総合評価と課題

教育に関しては赴任5年目になり、70人定員の第一期生である第十三期生を卒業させることができた。授業での工夫として、できるだけコメントカードを授業ごとに書いてもらい、学生の意見聴取に務めた。講義科目としては、三年前から同じであり、講義ノートは充実してきている。ゼミでは、全体ゼミ（3、4年）に3年ゼミ（講読）と4年個別指導を組み合わせておこなった。昨年度と比較すると時間は多くなっているが、学生一人に対する時間は少なくなっており、今後の課題となっている。4年生6名中、4名が福祉施設

教育研究活動報告書（杉原 俊二）

や病院、1名が地方公務員、1名が企業と自分たちが志望していた先へ就職できている。

研究に関しては、3年間行ってきた科学研究費補助金基盤研究（C）「うつ経験者の回復期支援法－自分史分析（4テーマ分析法）を用いた支援の効果－」の後処理に終始した。実践についての問い合わせも複数あり、次へとつながる研究にしたい。

委員会については、本年度も教務委員長の任にあたった。昨年度、保留となったカリキュラムの改正をおこなった。それと並行してアドミッションポリシー、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシーのワーキンググループも立ち上げ、その成果を合わせて、理事会まで提出して承認を得ることができた。大学院では、博士課程の入試委員となり、本年度の入試準備から実施までを担当した。

実のところ、教務委員長と入試委員の仕事の時期が重なり、多忙を極めたことがあった。長期休暇中も実習の仕事があるなどほとんど休みを取ることができず、教育や研究に少なからず影響を及ぼしていたこともある。特に、「地域福祉活動」の受講者に対してなかなか授業を実施できないなどのご迷惑をかけた。何とか全部実施できたが、綱渡りの日程となった。また、研究と並行して児童・家族福祉の実践家として「ワークライフバランス」についての啓蒙をしている立場上、自己警鐘を鳴らすべきであると考えている。

社会的な活動については、地域貢献として高知県社会福祉審議会の副会長、高知県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー」のスーパーバイザー（各種研修会の講師、東部ブロックのスーパービジョン）をおこなった。さらに難病連から「ピアカウンセリング」の連続講義を担当した。今後とも継続していき、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。また、学会誌の査読など、研究に関する後進の育成・指導といった仕事も、ここ数年増えてきている。特に、本年度は2回にわたるKJ法学会の大会運営委員、日本人間科学研究会第8回学術集会の実行委員会顧問を務め、大きな問題もなく終えることができた。これらの経験が、教育や研究に反映できればと考えている。

田中 きよむ

Kiyomu TANAKA

○ 研究活動

(1) 著書（共著）

- ・田中きよむ・水谷利亮・玉里恵美子・霜田博史『限界集落の生活と地域づくり』晃洋書房、2013年4月
- ・中山徹・杉山隆一編著『直前対策 子ども・子育て支援新制度 PART2』自治体研究社、2013年11月（田中；第4章「過疎地における保育の現状と課題」）

(2) 論説（共著）

- ・田中きよむ・水谷利亮・玉里恵美子・霜田博史「限界集落における孤立化防止と共生の居場所づくり・地域づくり」高知大学経済学会『高知論叢』第108号、2013年11月（77～112頁）

(3) 報告

- ・田中きよむ「地域福祉（活動）計画と住民主体のまち・むらづくり—高知県内各市町村の取り組み—（上）」『ふまにすむす』第25号、2014年3月（44～57頁）

○ 教育活動

(1) 学部

（専門教育）

1. 社会保障論
2. 福祉行財政と福祉計画
3. 福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
4. 低所得者に対する支援と生活保護制度
5. 保健医療福祉論
6. 社会保障と看護

（共通教育）

1. 現代社会論

(2) 大学院

（修士課程）

1. 福祉行財政論
2. オムニバス「人間生活福祉政策論」
3. 課題研究演習

○ 委員会活動

- ・（学部）人事委員会委員、自己点検評価委員会委員、高知県立大学社会福祉研究個人情報保護・倫理審査委員会委員長
- ・（全学）入試監査委員会委員長（学部入試）、入試監査委員会委員長（大学院入試）、土佐市連携プロジェクト委員、地域教育研究センター地域課題研究部会部会長、COCワーキング委員

○ 社会的活動

（委員等）

- ・運営適正化委員会委員
- ・高知市社会福祉審議会民生委員審査専門分科会会長
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・県内市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知県介護ケア研究会会長

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・全国障害者問題研究会高知支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会長
- ・高知県保育運動連絡会会長
- ・「ホームレス支援と貧困問題を考えるこうちの会」代表
- ・高知県地域年金事業運営調整会議 委員長
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員

（講演等）

- ・田村こどもクリニック講演「子どもの貧困・ワーキングプア」（2013年4月）
- ・救護施設中四国大会記念講演「地域の生活課題と救護施設に期待されるもの～地域生活の変容と貧困の多様化～」（2013年6月）
- ・高知県介護支援専門員更新専門研修講師「人格の尊重及び権利擁護」（2013年6月）
- ・高知県年金東事務所講演「年金制度のしくみと制度改革」（2013年6月）
- ・香美市ふれあい人権教室講演「香美市地域福祉計画と人権一子ども・高齢者・障害者一」（2013年6月）
- ・高知市社会福祉協議会生活困窮者自立支援研修（高知市長&豊中市社協局長対談）コーディネーター（2013年6月）
- ・高知市社会福祉協議会市民後見人養成講座講師（2013年7月）
- ・四万十町生活支援サポーター合同研修アドバイザー（2013年7月）
- ・高知県母親大会障害部会助言者（2013年7月）
- ・高知県東部ブロック民生委員児童委員協議会研修講演「個人を大切にす眼と地域を大切にす眼」（2013年7月）
- ・高知県リハビリテーション研究大会コーディネーター（2013年7月）
- ・香美市大栃中学校教員研修講師「キャリア教育の視点からみた福祉教育」（2013年7月）
- ・高知市小高坂地区地域福祉計画住民座談会アドバイザー（2013年8月・11月・2014年3月）
- ・高知県社会教育主事講習講師（2013年8月）
- ・高知県自治労連保育部会研修講師「子ども・子育て新制度と高知の保育」（2013年8月）
- ・高知県社会福祉協議会地域福祉課題別研修講師「低所得者・ホームレス」（2013年8月）
- ・高知県労働者学習協議会講師「働くルール・社会保障と憲法」（2013年8月）
- ・高知県社会福祉協議会地域支援ワーカー研修講師（2013年9月）
- ・三菱UFJリサーチ&コンサルティング共生ケア研修（高知）講演講師・パネルディスカッションコーディネーター（2013年9月）
- ・高知県医労連定期大会講演「社会保障国民会議報告と社会保障運動の方向」（2013年9月）
- ・四国ブロック保育運動連絡会議講師「子ども・子育て新制度と高知の保育」（2013年9月）
- ・中四国身体障害者施設職員研修大会分科会「地域とつなぐ」助言者（2013年10月）
- ・生活保護学習会報告「日常生活自立支援事業と地域共生」（2013年10月）
- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座講師「社会保障制度改革推進法と社会保障制度改革のゆくえ」（2013年10月）
- ・須崎市社会福祉大会講演「住民共生の居場所づくり・地域づくり—孤立化防止・ネッ

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- トワーク・アクションプラン—」（2013年10月）
- ・脳外傷リハビリ講習会コーディネーター（2013年10月）
- ・J Aコスモス（佐川町）講演「地域の見守り活動と共生の居場所・地域づくり」（2013年10月）
- ・佐川町健康福祉大会コーディネーター（2013年10月）
- ・生活保護学習会報告「生活扶助相当C P Iについて」（2013年11月）
- ・香南市社会福祉協議会ボランティア講座講師「生活困窮・貧困問題と地域支援」（2013年11月）
- ・奈半利町樋ノ口地区地域福祉計画住民座談会アドバイザー（2013年11月）
- ・中芸地域づくりサポーター養成講座講師（2013年11月）
- ・全国ボランティアフェスティバル分科会「移動制約者とまちづくり」助言者（2013年11月）
- ・三菱UFJリサーチ&コンサルティング共生ケア研修（福島・岩手・宮城）講演講師・パネルディスカッションコーディネーター（2013年11月）
- ・中四国社会就労センター協議会職員研修会助言者（2013年11月）
- ・香美市大柘中学校教員研修助言者（2013年12月）
- ・NPO全国移動サービスネットワーク理事会研修パネリスト（2013年12月）
- ・全国ケアワーカー集会（ワーカーズコープ）「尊厳ある人間の関係と地域の豊かさのために」コメンテーター（2013年12月）
- ・高知県立大学健康長寿センター講演「住民主体の『元気生き生き』まちづくり—孤立化防止・居場所づくり・地域づくり—」（2013年12月）
- ・高知県立大学・北川村社会福祉協議会地域連携モデル事業「小学生の福祉教育への学生支援」（2013年12月）
- ・馬路村地域福祉研修講師「地域の見守り、移動・買い物問題と地域づくり」（2013年12月）
- ・津野町講演・ワークショップ「地域の見守り、居場所づくり、地域づくり」（2014年1月）
- ・南国市民生委員児童委員大会講演「支え合う関係づくりと共生の地域づくり」（2014年1月）
- ・香美市講演「住民主体地域づくり」（2014年1月）
- ・四国ブロック市町村社会福祉協議会研究協議会パネルディスカッション「生活困窮者支援の現状と今後の展開」コーディネーター（2014年2月）
- ・安芸市川北地区地域福祉計画地区座談会アドバイザー（2014年2月）
- ・四万十市健康委員会基調講演「住民主体の支えあいの地域づくり」（2014年2月）
- ・大豊町ボランティア大会講演「共に生きるボランティア」（2014年2月）
- ・中学校給食を考える学習会講演「子どもの成長・発達と貧困」（2014年2月）
- ・馬路村日浦地区地域福祉座談会アドバイザー（2014年2月・3月）
- ・四万十町地域福祉活動計画推進委員会アドバイザー（2014年2月）
- ・安芸市安芸地区地域福祉計画地区座談会アドバイザー（2014年3月）
- ・高知大学国際・地域連携センター「地域志向研究発表会」報告「地域ニーズ集の作成と活用」（2014年3月）
- ・高知県社会福祉協議会「地域支援実践者交流会」審査員（2014年3月）
- ・土佐清水市社会福祉協議会ボランティア研修会講演「高齢者の豊かな経験と知識、技能を活かしたボランティア活動について」（2014年3月）
- ・高知市旭地区お世話焼きさん実践発表会助言者（2014年3月）

教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・高知県肢体障害者協会講演「共生の関係づくりと地域づくり」（2014年3月）
- ・土佐市地域活動支援センター地域移行・地域定着支援事業講演会「共に生きる地域づくり」（2014年3月）
- ・シルバーボランティア研究会報告「高知県の地域福祉活動と地域づくり」（2014年3月）
- ・介護予防一般高齢者施策事業（中芸5ヶ町村）アドバイザー（2014年3月）

○総合評価と課題

- ・地域福祉論の研究面では、限界集落における高齢者の生活実態と地域づくりに関する第一次の調査研究（2008～10年度中心）成果をとりまとめ、出版化した。2014年度は、第二次の調査研究（2012～14年度中心）成果をふまえた総括的な集約を進めた。また、これまでの地域福祉研究のとりまとめの方向についても検討したい。

社会保障制度論の研究成果としては、2013年度に予定していた二点に関して出版化に至らず、2014年度に延びることになった。

- ・教育面では、講義に関しては、入学学生数の増加に伴い、学生の理解度の把握が難しくなっている面や、学習姿勢の個別差が大きくなっている面もうかがえる。学生人数が多くなるなかでも、個々人の理解力、習熟度の把握方法を工夫しながら、社会保障制度や低所得者支援制度、福祉行財政に関する基礎知識と理解能力、応用力を段階的に高めてゆけるような配慮が必要である。学生の知的好奇心に応じながら、各制度の個別理解と総合的理解の両面に配慮した授業を心がけたい。

専門演習に関しては、ゼミ生は主として地域福祉研究に関心をもっており、実態調査して理論化してゆく調査研究能力と現実問題に応えられる課題解決能力が身につけられるように配慮した指導を心がけたい。文献研究の基本をも身につけつつ、様々な地域福祉領域の中で自分の問題関心を焦点化させて深め、卒論作成ができるように配慮した指導を進めてゆきたい。2014年度4回生は共同研究の意向も一部に見られることから、それに応じた指導を工夫する必要がある。

- ・社会的活動は、今年度も地域福祉に関連して県内外の社会福祉協議会やNPO、住民組織等との連携を持たしていただいたが、生活困窮者支援や貧困問題に焦点を合わせる研修ニーズの高まりがうかがえ、それに合わせた対応を図ってゆく必要がある。今後、地域教育研究センター地域課題研究部会やCOCの動きも視野に入れながら、個人や個別ゼミだけでなく、学部全体・学部横断的な総合的アプローチにも協力してゆきたい。

長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

○研究活動

（1）論文（1件）

- ・ 長澤紀美子 (2013) 「諸外国における自治体評価」『社会政策』（小特集2：ポスト福祉国家における政策評価）Vol.5 No.2（通巻第15号），p.156-162.

（2）報告（1件）

- ・ 長澤紀美子 (2014) 「施設ケアにおける自立支援のアウトカム評価－イギリスにおけるASCOT指標の意義と課題」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』No.63，p.143-151.

（3）著書（1件）

- ・ 長澤紀美子・神原咲子「ソーシャル・イノベーションの必要性」p.108-111，
長澤紀美子「英国の介護（ロングタームケア）のアウトカム評価指標」p.102-103，
長澤紀美子「Column 近未来の社会」p.19，
南 裕子（監修）新川加奈子・大野夏代・神原咲子（編）（2013）『国際看護学－グローバル・ナーシングに向けての展開』中山書店.

（4）参考書（1件）

- ・ 長澤紀美子「現代社会と福祉」一般社団法人・精神保健福祉士養成校協会（編）（2013）『精神保健福祉士国家試験・模擬問題集2013』p.111-115，182-185の一部（問題編），p.126-130，p.202-206の一部（解答編）中央法規.

（5）報告書（1件）

- ・ 神原咲子・呉 小玉・長澤紀美子「多文化共生社会の災害情報に対するバリアフリーモデルの構築」研究代表者・神原咲子，公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団平成24年度ECOMO交通バリアフリー研究助成.

○教育活動

（1）学部

- ・ 講義科目「現代社会と福祉」「国際福祉論」「女性福祉論」
- ・ 実習・演習科目「相談援助実習指導」「相談援助実習」「相談援助演習」
「福祉研究演習Ⅰ」「福祉研究演習Ⅱ」受講者6名，「福祉研究演習Ⅲ」受講者6名

（2）大学院人間生活学研究科

- ・ 「国際福祉政策論」／オムニバス「人間生活福祉政策論」
- ・ 副指導教員としてM1生3名，M2生4名，主指導教員としてM1生1名を担当.

○委員会活動

【全学】全学国際交流委員長（留学生確保プロジェクトの長と兼任）

【学部】学部総務委員長，学部教務委員

【大学院】人間生活学研究科学位審査委員・大学院選出国際交流委員

○社会的活動

（1）委員等

- ・高知県女性の自立支援促進事業委託業務プロポーザル審査会審査委員
- ・高知市行政改革推進委員
- ・高知県社会福祉協議会地域密着型サービス外部評価事業評価審査委員

○総合評価と今後の課題

（1）研究活動について

- ・看護学部神原咲子准教授、李賢珠非常勤講師と共に、高知県国際交流課、高知県国際交流協会、南国市国際交流協会、本学防災ボランティアサークルいけあいの学生の協力のもと、高知市在住外国人や留学生等に対する災害等に関する意識調査を行い、その成果を報告書にとりまとめた。
- ・3月に訪英して調査を行ったロングタームケアのアウトカム指標に関する研究の整理を継続し、日本での実証的研究を進めることが今後の課題である。
- ・公共経営に関するテキストの翻訳を継続して行い、出版に向けて準備を進めている。

（2）教育活動について

1) 学部教育

- ・昨年同様、「女性福祉論」の中で、女性支援の現場（県女性相談支援センター，こうち男女共同参画センター「ソーレ」等）への訪問とDV被害者等支援団体代表を招き、女性の生活課題を体験的に理解する機会を設けた。
- ・「国際福祉論」において留学生や青年海外協力隊員の卒業生を招き、異文化や多様性の理解を促進した。「マレーシアでの多文化共生と障害者就労支援」（11/22）（卒業生3期生大塚亜季さん）、「アメリカ・タイの医療保険制度」（エルムズ大学学期留学生ゴン・トンプーンさん）（11/29）
- ・1回生必修科目「現代社会と福祉」では、学生の個人発表・グループ発表及びリアクション・ペーパーへの回答を通じて、双方向的な授業の展開に努めた。

2) 大学院教育

- ・「人間生活福祉政策論」では政策研究の手法を紹介すると共に、データベースを活用した英文文献レビューのスキルの向上を図った。
- ・「国際福祉政策論」では視聴覚教材を活用しながら、ケアの評価研究や政策の国際的動向を概観し、日本との比較の視点の涵養を図った。

（3）学内業務について

- ・全学国際交流委員長として、学部選出国際交流委員（鳩間講師）や1回生学年担当教員等の学部教員の協力のもと、国際交流の活性化に向けた取り組みを進めた。
- ① 6月にアメリカ・エルムズ大学、イタリア・ベネツィア大学からの短期留学生、中国・台湾からの交換留学生の池デイを開催し、1回生授業への参加、介護体

教育研究活動報告書（長澤 紀美子）

験・交流会を通して、社会福祉学部生の異文化間交流の機会を設けた。またエルムズ大学よりの学期留学生が本人の希望に基づき、3回生授業への参加やゼミ生との高齢者施設訪問を行った。

- ② 8月7日にマレーシア国立サバ大学第1回交換留学生来学記念特別企画「聴いてみよう！外国で暮らす・学ぶ・働くこと」と題し、池キャンパスにて、本学部卒業生で青年海外協力隊員としてマレーシアから帰国した大塚亜季さんと健康栄養学部のサバ大学留学生2名による報告会を開催した。
- ③ インドネシア国立ガジャマダ大学（UGM）と11月に交流協定を締結し、12月末に看護学部教員と共に訪問し、研究科長らと学術研究交流及び交換留学等に関する検討を行い、DNGL（災害看護グローバルリーダー養成プログラム）専攻大学院生のインターンシップのためのフィールドの視察を行った。
- ④ 8月にフィンランド・ハメリナにあるHAMK, Univ. of Applied Sciencesを訪問し、社会福祉学科が含まれるWellbeing学部教員及び大学院研究科長と、学生間の国際交流や協定の可能性について協議した。
- ⑤ 役員会・部局長会議等において、本学の留学生確保とグローバル化に向けた課題を整理して報告・提案を行い、留学生確保に向けた広報活動や受入体制の整備を図った。

・学部総務委員としての活動内容は、委員会活動の頁に記述した。

○研究活動

学会活動 第 60 回日本病跡学会総会理事会出席（2013. 7. 29、大阪コンベンションセンター）

国内学会発表：生と死を具象する横尾忠則「原始宇宙」について一国際瀬戸内芸術祭出品作品から一（第 17 回精神医学史学会、2013. 11. 13、東京慈恵会医科大学）

国内学会発表：狂病を発病した禰子内親王の病跡と歌風の変遷（第 60 回日本病跡学会、2013. 7. 29、大阪国際会議場）

発表論文：生と死を具象する横尾忠則「原始宇宙」について一国際瀬戸内芸術祭出品作品から一精神医 24（1）84-86.

研 修 芸術療法学会芸術療法プライマリーコース研修（8. 9～10）

○教育活動

担当科目：精神医学、精神保健学、人体の構造と機能及び疾病、保健医療サービス福祉研究演習、地域福祉活動 他

○委員会活動

人権委員会委員長

健康管理センター運営委員

○社会的活動

学外地域貢献：土佐清水市増病院非常勤医師（2013 年 1 月～7 月）

東海学院大学・北海道ハイテクノロジー専門学校非常勤（集中講義）
講師

在家僧侶活動

・鈴木家 1 周忌納骨埋葬法要（2013. 1. 12）約 10 人 さいたまやすらぎの杜
霊園

○総合評価及び今後の課題

赴任 5 年目にしては、新しい環境でかなり研究活動ができたように思われる。しかし高血圧で体調が悪く、その不調を押して参加した学会発表や遠くまで遠征して発表した国際会議の成果が今のところまだ活字として残せていないのは残念としか言う他ない。また今年は大阪応典院、近江八幡ボーダーレス美術館等への見学旅行の引率も機会があった。平成 25 年度は、担当授業科目も増えるし、新しい役職も任される。非常勤医師勤務先の病院も変わる。在家僧侶活動も数が増えるだろう。ゼミも復活する。健康には十分留意し精進して、研究活動中心に（科研費取得は絶対の天命）猶頑張りたい！

○研究活動

○教育活動

講義

1 「コンピュータリテラシー」（共通教養教育リテラシー科目）

池キャンパスの本部・健康栄養学部棟 2 階と共用棟 2 階の情報演習室において、前期に池キャンパス 3 学部の新入生を対象とした 5 クラス（看護学部 2、社会福祉学部 2、健康栄養学部 1）の授業を担当した。大学での学びにパソコンを活用できるように、ワープロソフト Word、表計算ソフト Excel、プレゼンテーションソフト PowerPoint の基本的な操作を中心に実習形式の授業を行った。新学期が始まる直前の 3 月に情報演習室の Office ソフトが Office2007 から Office2010 にバージョンアップされたが、授業で用いるテキストは前年度に Office2010 準拠に変更していたので、前年度の授業では必要であった使用する Word・Excel・PowerPoint2007 とテキストの Word・Excel・PowerPoint 2010 との機能や操作法の違いに関する補足が不要になり、授業自体はやりやすかった。

2 「社会福祉特別演習 I」（社会福祉学部専門科目）

前期の「コンピュータリテラシー」の続編として、後期に Word、Excel、PowerPoint 操作のステップアップを目的とした実習形式の授業を情報演習室において行ったが、受講生は少数であった。PowerPoint を用いたプレゼンテーションを課題とした。

3 「特別講義 V（データ解析論）」（大学院人間生活学研究科共通科目）

地域教育研究センターの谷本教授（2013 年 9 月末退職）と分担して担当し、主として Excel の統計関数を用いた相関分析・回帰分析やピボットテーブルによるクロス集計に関する実習形式の集中授業を行った。

○委員会活動

1 部局長会議、教育研究審議会

社会福祉学部長として部局長会議と教育研究審議会の委員となり、大学運営に参画するとともに社会福祉学部の教務や人事関係等の案件を提議した。また、教育研究審議会のもとに設置される他学部教員の採用や昇任に関する人事委員会の委員を務めた。

2 社会福祉学部教授会

議長として教授会を開催し、部局長会議や教育研究審議会の審議内容や決定事項を報告して周知すると共に、大学の方針に則って社会福祉学部の運営を司った。

3 学部人事検討会

学部人事検討会委員長として、社会福祉学部の採用・昇任人事案件を教育研究審議会に提案した。そして、教育研究審議会のもとに設置される社会福祉学部教員に関する人事委員会の委員長として、人事委員会を開催して応募者の選考や昇任人事の審査を行った。

4 全学入試委員会、学部入試委員会

社会福祉学部の入試実施委員を統括し、2014年度入学試験の円滑な実施に努めた。また、学外で開催された進学相談会に出席して、社会福祉学部の PR と志願者の確保に努めた。

○社 会 活 動

○総合評価と課題

1998 年度に社会福祉学部教授として赴任し、2002 年度に思い掛けず社会福祉学部長に就任して以来、2013 年度まで学部長を 6 期 12 年間務めたが、これを機に定年まで約 1 年間を残して退職することにした。

学部長を務めている期間に、大学としては 2011 年度から法人化、男女共学化され、名称も高知女子大学から高知県立大学へと変更されるという大きな改革があった。社会福祉学部では、大学改革に先立つ 1 年前の 2010 年度から入学定員を 30 名から約 2.3 倍の 70 名に増員するとともに、教員数も増やし、介護福祉士養成課程を設置するという拡充を行った。この拡充により、西日本で唯一の社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の 3 福祉士国家資格に対応した公立大学社会福祉学部となった。2010 年度に高知女子大学としては最後の、拡充した社会福祉学部としては最初の入学生となった 13 期生が、これまでの社会福祉士と精神保健福祉士のダブル資格に加え、社会福祉士と介護福祉士のダブル資格を取得して 2013 年度に高知県立大学を卒業し、社会福祉学部の拡充は一応完成をみた。学部長として社会福祉学部の拡充計画を遂行してきた立場からは、拡充された社会福祉学部の 1 期生とも言える 13 期生の卒業を見届けることができたことは喜びである。

○研究活動

（1）論文

- ・丸岡利則（2014）「社会福祉学の知識—社会資源論のメタ・クリティック」（高知県立大学 社会福祉学部紀要）
第63巻、21-38頁。

（2）学会発表

なし

（3）研究会

- ・丸岡利則（2013）発表『ソーシャル・ケア研究会』（於：武庫川女子大学研究室）
「続・ソーシャル・ケアにおける人間関係」の要旨発表

○教育活動

学部担当科目

1. 「社会福祉史」
2. 「相談援助の基盤と専門職」
3. 「社会保障と生活」（共通教養教育科目）
4. 「相談援助演習」
5. 「相談援助実習指導」
6. 「相談援助実習」
7. 「社会福祉入門演習」
8. 「社会福祉基礎演習」
9. 「ふれあい実習」

○委員会活動

1. （全学）法人災害対策プロジェクト・学外連携災害対応部会責任者
2. （全学）紀要編集委員長
3. （学部）実習委員長、倫理審査委員

○社会活動

1. 委員等

- ・社会福祉法人あけぼの福祉会（監事）2003年3月～
- ・高知県社会福祉協議会日常生活支援事業契約締結審査会委員長 2011年11月～
- ・高知県共同募金会評議員および配分委員 2012年6月～

○総合評価と今後の課題

前年度の教育と研究、大学運営についての自己評価は、以下のとおりである。

まず、教育については、新たな講義科目「社会福祉史」を担当した。歴史認識にせよ、パラダイム歴史観にせよ、とりわけ福祉史と一般の歴史との違いが大きな争点となった。さらには、教養としての歴史学は、学生にとって重要であり、一貫して西洋史と日本史の教養を披歴することができたと同時にさらなる研究の必要性を感じた。それは、まさに教育が研究の裏付けなしには何も進展しないことを改めて痛感した。

そして、研究面では、理論福祉学という独自の研究成果をまとめることもできず、まったく進展がなかった。これはまことに不徳の致すところである。今後の課題は、独自の社会福祉学の論攷から導いた理論福祉学の成果を世間に懇えたいと考えている。

宮上 多加子

Takako MIYAUE

○研究活動

（1）論文

- ・宮上多加子・田中眞希（2014）離職者を対象とした介護福祉士養成事業修了生の介護に対する認識と仕事の信念『高知県立大学紀要社会福祉学部編』63, 151-161.
- ・田中眞希・宮上多加子（2013）離職者を対象とした介護人材養成教育に対する教員の認識『介護福祉教育』18（2）, 40-48.

（2）学会発表

- ・宮上多加子・田中眞希：離職者を対象とした介護福祉士養成事業修了生の介護に対する認識，日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第45回大会（徳島），2013年7月.
- ・田中眞希・宮上多加子：離職者対象の介護人材養成事業の課題—事業利用学生と行政の立場から—，日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第45回大会（徳島），2013年7月.
- ・黒田しづえ・宮上多加子・古屋央枝・ほか：多職種参加型DVD教材作成の取り組み事例報告，ナイチンゲールKOMIケア学会第4回学術集会（福岡），2013年6月.

○教育活動

講義の概要

[学部]

（1）「介護過程Ⅰ」

介護福祉コース2回生(前期)の授業である.ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMIケア理論」の基礎と、介護過程の概要について講義した.

（2）「認知症の理解Ⅰ」「認知症の理解Ⅱ」「こころとからだのしくみⅡ」「発達と老化の理解Ⅱ」

いずれも、介護福祉コース2回生（後期）と3回生（前期）の授業である.科目間で関連のある内容については、講義のテーマや順番を工夫した.また、介護福祉士国家試験に向けて、試験を想定した補助テキストを使用した.

（3）「福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」

研究活動に関する基礎的な力を身に付けることを目標として、少人数ゼミで継続的な指導を行った.3回生の受講者は4名、4回生の受講者は5名であった.なお、4回生の卒業研究とゼミの活動内容については、ゼミ記録として冊子にまとめた.

（4）「地域福祉活動Ⅰ」

ゼミ生を中心とした少人数の受講者であったが、家族会のつどいへの参加や県外で開催された学術集会への参加等を通して、実践的な内容について理解を深める工夫をした.

[大学院（人間生活学研究科）]

（1）「介護福祉論」

介護福祉に関係した理論や研究論文の紹介、介護・看護現場におけるケアの動向等を概観し、介護福祉学が果たす役割と課題に関する検討を行った.

（2）論文指導

教育研究活動報告書（宮上 多加子）

正指導教員としてM1生1名,副指導教員としてM1生3名,M2生2名を担当した。大学院(M)研究員は1名を受け入れた。修士論文作成に関するディスカッションの場として、人間生活学研究科の院生だけでなく、健康生活科学研究科の院生や大学院研究員の参加も募り、大学院ゼミを毎月1～2回継続的に開催した。

[大学院（健康生活科学研究科）]

正指導教員として院生3名,副指導教員として院生13名を担当した。

○委員会活動

[全学]

人間生活学研究科長
大学院見直し検討委員会委員

[学部]

学部総務・予算委員会（予算委員長）
学部人事関係検討会／自己点検評価委員会

[大学院（健康生活科学研究科）]

学務委員

○社会的活動

高知市民生委員推薦会委員
高知県福祉基金理事
高知県医療審議会委員
ナイチンゲール KOMI ケア学会理事

○総合評価と今後の課題

今年度は住友教授の後任として人間生活学研究科長に選出され、大学院運営に携わることになりました。通常の大学院業務に加えて、平成26年度からの大学院新体制に向けた準備および博士前期課程・博士後期課程の各2回の入試業務、また、大学院の理念・目的の検討、アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシーの検討といった認証評価に向けた取り組みを行うなど多忙な1年でした。

学部内では、平成24年度に引き続き総務・予算委員会に所属し、本年度は主に学部の予算関係を担当しました。限られた予算を有効に活用できるよう、計画的な執行を再検討する必要があると感じます。

研究面では、引き続き離職者に対する介護福祉士養成教育に関する調査の発表と、新たに准看護師養成校の成人学生への調査にも着手しました。調査の中では、介護分野から看護師を目指す人たちの意向や仕事についての意識を知ることができ、介護福祉分野の人材確保について、新たな面から現状を見る機会にもなったと思います。

○研究活動

（１）論文

なし

（２）学会発表

2013年6月 第3回ナイチンゲール KOMI ケア学会

（３）研究資金の獲得状況

特定非営利法人ナイチンゲール KOMI ケア学会研究助成制度「ナイチンゲール KOMI ケア記録システムを促すための教材開発」（研究代表者）（平成25年11月～平成26年12月）

○教育活動

講義の概要

1. 「介護の基本 I」
2. 「介護の基本 II」
3. 「生活支援技術 III」
4. 「介護過程 II」
5. 「介護過程 III」
6. 「介護福祉実習 I」
7. 「介護福祉実習 II-①」
8. 「介護福祉実習 II-②」
9. 「福祉研究演習 I」
10. 「福祉研究演習 II」
11. 「福祉研究演習 III」

○委員会活動

全学：医療センター連携事業③

学部：介護コース主担当、学部広報委員長、学生委員会、実習委員会、3回生学年担当

○社会活動

- ・須崎くろしお病院 院内研修会「看護職員の看護過程展開に関する指導」 講師
- ・高知県福祉人材センター・高知県福祉研修センター 平成25年度 運営委員
- ・平成25年度 介護福祉士実習指導者フォローアップ研修会 講師
- ・社会福祉法人 高知県社会福祉協議会「第2回コレスバ in 高知」企画委員
- ・平成25年度ホスピスボランティア養成講座 講師
- ・日本介護福祉士養成校協会総会・全国教職員研修会「ワークショップ1」司会・運営
- ・「高知の福祉をよりよくカエル実践発表会」第2回コレスバ福祉 in 高知 審査員
- ・丸の内高校「進学ガイダンス」講師

○その他

- ・ 公益法人 日本介護福祉士養成施設協会主催「平成 25 年度医療的ケア教員研修会」
受講 修了

○総合評価と今後の課題

介護福祉課程コースとしては、完成年度を迎えるに至りました。17名のダブル資格取得へ向けた取り組みへの対応と同時に就職面での活動にもコースの教員一丸となって取り組んで参りました。この姿勢は、今後も継続していく所存です。

次年度入学の介護福祉過程コース学生からは、カリキュラムの改正に伴い現行の進度とは異なりますが、さらなる充実を目指して取り組みたいと考えています。

14期生の学年担当としては、社会福祉現場実習が加わり、いよいよ本格的な年度が始まりました。加えて、就職活動も始動し充実した学生生活となるよう支援してまいりましたが、次年度へ向けてさらに学生個々人の自覚を促すとともに、最終学年へ向けての学生生活を応援したいと考えています。

後藤 由美子

Yumiko GOTOH

○研究活動

(1) 論文

なし

(2) 学会発表

- ・後藤由美子「高齢者介護施設における外国人介護士への就労支援」
日本健康福祉政策学会第 17 回学術大会（出雲市、ビッグハート出雲）, 2013 年 11 月 30 日

(3) 研究資金の導入

- ・文部科学省科学研究費補助金（基盤研究（C））「地方都市・過疎地域における外国人介護者定着促進のための学術的研究」（研究分担者）（平成 23 年～25 年度）

○教育活動

[学部担当科目]

1. 「介護の基本Ⅱ」
2. 「介護の基本Ⅲ」
3. 「生活支援技術Ⅰ」
4. 「生活支援技術Ⅱ」
5. 「福祉研究演習Ⅰ」
6. 「福祉研究演習Ⅱ」
7. 「介護実習Ⅰ」
8. 「介護実習Ⅱ①」
9. 「介護実習Ⅱ②」
10. 「介護技術」

[他学部]

1. 教職課程「介護等体験」事前学習

○委員会活動

[全学]

- 産官学研究部会員
- キャリア支援部会員
- 入試監査委員

[学部]

- 実習委員
- 国試対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

- ・高知県介護福祉士会監事
- ・日本認知症ケア学会代議員
- ・介護実習指導者講習会講師
- ・介護労働講習講師
- ・高知県立大学社会福祉学部
「高校生のための公開講座 認知症の人たちを支えるために」 8月3日
- ・高知県社会福祉協議会「地域福祉の課題別研修 高齢者虐待」 8月20日
- ・研究会（シルバーボランティア研究会）の企画・運営 3月21日

○総合評価及び今後の課題

（1）教育活動

介護福祉士養成課程において4年目の完成年度となり、初めての卒業生を送り出すこととなりました。介護コースの学生は4年次に3回生と共に社会福祉士指定科目の相談援助実習を行い、卒業時には介護福祉士と社会福祉士の2つの資格を取得することができました。卒業後は、相談員や介護などの職に就くよう2つの資格が十分発揮できるのではないかと思います。介護コースは1回生から指定科目があるため、講義と演習科目の関連付けができるようレジュメや視聴覚教材の利用など工夫をしました。今後も科目間の理解がスムーズになるよう努めていきたいと思えます。

今年度の地域教育研究センターキャリア支援部会の新規事業として、1回生を対象としたキャリア教育の機会を設け、研修を行ないました。また、既卒者への資格取得支援等に関するニーズ調査を実施しました。今後はそれらの結果から効果的な支援を図りたいと思えます。

（2）研究活動

研究面では、高知県西部の介護施設を訪問と介護施設で介護職員に対する教育研究の取り組みに参加し、介護人材養成教育に関する課題について検討することができました。今後も継続して中・四国・近畿地域を基盤に調査を行い、介護福祉人材に関する研究を進めていきたいと考えています。

今年度、高知で研究会開催を企画したが、県内の地域住民と関西地域との交流ができ、活動への理解が深まりました。これからも学会への参加、県内の地域活動にも積極的に参加し連携を図っていきたいと思えます。

（3）その他

高知県介護福祉士会活動として介護職員研修等に関わりました。介護福祉士養成課程で重要な位置づけとされる介護実習をよりよいものとするために介護現場の状況等について学ぶ機会となりました。今後も介護に関する課題を中心に介護福祉人材の育成に参画し、地域社会に貢献できるよう努力していきたいと思えます。

○研究活動

(1) 学術論文

- ・鈴木孝典「精神障害者の居住支援とソーシャルワーク」『ソーシャルワーク研究』vol. 39、No155、2013.10、pp. 16-23.

(2) 著書

- ・鈴木孝典「居住支援の実際と精神保健福祉士の役割」日本精神保健福祉士養成校協会 編『新・精神保健福祉士養成講座 7 精神障害者の生活支援システム（第2版）』中央法規出版、2013.2、pp. 170-173.
- ・鈴木孝典「精神保健福祉実習指導 I（追加テキスト）」一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 編『平成 25 年度精神保健福祉実習・演習担当教員講習会テキスト』一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会、2014.2、pp. 166-172.

(3) その他

- ・鈴木孝典「ICFをもとに作成した個別アセスメントシートを活用した居住支援」田中英樹、中野伸彦 編『ソーシャルワーク演習のための 88 事例-実践につなぐ理論と技法を学ぶ』中央法規出版、2013.4、176-178.
- ・鈴木孝典「グループホーム（共同生活援助）・ケアホーム（共同生活介護）・福祉ホーム」精神保健福祉白書編集委員会『精神保健福祉白書 2014 年版-歩み始めた地域総合支援』中央法規出版、2013.12、p. 57.

(4) 学会発表等 なし

(5) 競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤(C)、課題番号:25380758、平成 25 年度-27 年度）
研究代表者：鈴木孝典
研究課題名：「精神障害者グループホーム選択指標の開発的研究」
- ・平成 24 年度厚生労働科学研究補助金（障害者対策総合研究事業(精神障害分野)）『精神保健福祉士の活動評価及び介入方法の普及に関する研究』（課題番号:H25-精神-一般-006）、研究協力者
研究代表者：石川到覚
研究分担者：岩崎香

○教育活動

(1) 講義

[学部]

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1. 「精神保健福祉論」 | 6. 「福祉研究演習Ⅰ」 |
| 2. 「精神保健福祉援助実習」 | 7. 「福祉研究演習Ⅱ」 |
| 3. 「精神保健福祉ふれあい実習」 | 8. 「福祉研究演習Ⅲ」 |
| 4. 「精神保健福祉援助演習」 | |

教育研究活動報告書（鈴木 孝典）

5. 「精神保健福祉援助技術総論」

[大 学 院]

1. 「人間生活論演習Ⅱ」
2. 「精神保健福祉論」
3. 「障害者福祉論」

(2) 講義以外

1. 実習支援

精神保健福祉援助実習の配属実習に備えて、実習の動機、課題の深化及び実習計画の作成のための個別指導を実施した。

2. 国家試験受験者への学習支援

精神保健福祉士国家試験受験者に対して、「精神保健福祉に関する制度とサービス」、「精神障害者の生活支援システム」、「精神医学」の3教科にかかわる受験対策講座を開講した。

3. 競争的研究資金獲得のための支援

科学研究費補助金獲得のための研究計画調書の作成に係る助言、指導を社会福祉学部の助教3名に対して行った。

○委員会活動等

(1) 学 部

- | | |
|------------------|--------------------|
| 1. 精神・社会福祉コース主担当 | 4. 入試実施委員 |
| 2. 実習委員 | 5. 就職委員 |
| 3. 情報処理委員 | 6. 個人情報保護・研究倫理審査委員 |

(2) 大 学 院

1. 人間生活学研究科学務委員

(3) 全 学

1. 総合情報センター情報処理部会員
2. 入試実施委員

○社会的活動

(1) 委 員 等

1. 高知県精神保健福祉士協会 役員（運営委員）（2008年4月～）
2. 高知県精神保健福祉士協会 中堅者研修委員会 委員（2013年4月～）
3. 高知県精神医療審査会 委員（2008年4月～）
4. 高知県自立支援協議会 委員（2009年2月～）
5. 高知県自立支援協議会人材育成部会 部会長（2013年9月～）
6. 高知県障害者施策推進協議会 委員（2009年4月～）
7. 高知県障害者介護給付等不服審査会 委員（2010年4月～）
8. 高知県精神障害者アウトリーチ推進事業評価検討委員会 副会長（2012年3月～）
9. 高知県自殺対策啓発事業委託業務公募型プロポーザル審査委員会 委員（2013年3月～）
10. 高知市障害者計画等推進協議会 会長（2014年11月～）
11. 高知市自立支援協議会 相談支援のあり方に関する検討会 委員（2013年2月～）

教育研究活動報告書（鈴木 孝典）

12. 高知市自立支援協議会 定例会 委員（2014年4月～）
13. 社会福祉法人土佐あけぼの会 評議員及び第三者委員（2010年4月～）
14. 高知県社会福祉協議会「退職前世代の生きがい研究」検討会 委員（2013年7月～）
15. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会 企画委員（2013年4月～2014年3月）
16. 一般社団法人日本精神保健福祉学会 事務局次長（2012年6月～）

（2）講演等

1. 特定医療法人仁生会細木ユニティ病院 特別講演会「患者の権利を護る」講師（7月19日）
2. 高知県社会福祉協議会 地域福祉のテーマ別研修「障害者の地域生活」講師（8月20日）
3. 社会福祉法人養和会 研修会「精神障害者の居住支援を考える」講師（9月11日）
4. 社会福祉学部第2回学会・研究活動等報告会 話題提供者（9月30日）
5. 高知県精神保健福祉士協会 定例研修会 助言者（11月3日）
6. 平成25年度高知県相談支援従事者追加研修「障害者ケアマネジメント概論」講師（2月1日）
7. 幡多地区社会福祉協議会連絡協議会研修会「相談援助の基礎」講師（2月22日）
8. 公益社団法人日本精神保健福祉士協会 基幹研修Iファシリテーター（3月8日）
9. 一般社団法人日本精神保健福祉士養成校協会 精神保健福祉士実習演習担当教員講習会（厚生労働省補助金事業）「実習分野講習会」講師（3月10日（神戸）、3月25日（東京））

（3）学外非常勤講師

1. 高知医療学院（「社会福祉学」担当）
2. 土佐リハビリテーションカレッジ（「社会福祉学概論」担当）

○総合評価及び今後の課題

（1）教育活動について

今年度は、昨年度に引き続き、教育内容の評価と改善を実施した。具体的には、昨年度の教育内容の評価を踏まえて、教材や授業の構成を変更した。くわえて、リアクションペーパーによる学習自己評価、中間的効果測定による理解度評価、課題演習による習熟度評価、の三段階による授業評価ポートフォリオを作成し、教育内容の課題抽出に努めた。また、昨年度と同様に、精神保健福祉士の新カリキュラムに対応した教材を開発することを目的に、テキスト及び事例集の作成に携わった。

来年度は、今年度に引き続き、授業評価ポートフォリオを活用し、PDCAサイクルによる教育内容の質の管理に努めるとともに、精神保健福祉士の新カリキュラムに対応した教材開発を進めていきたい。

（2）研究活動について

今年度は、昨年度に引き続き、厚生労働科学研究補助金を受けた精神保健福祉士の実践評価に係る調査研究に研究協力者の立場で関与し、その研究成果を施策に反映させることができた。あわせて、この活動を通じて学外の研究者及び臨床家との共同研究を深めることができた。来年度も引き続き、他の研究者との共同研究を行い、精神保健福祉士の活動の評価を進めたい。

また、今年度は、新たに科学研究費補助金（基盤(C)）を獲得し、グループホームの選択を支援する指標開発に向けた研究に着手した。しかし、今年度は、研究活動の基盤づ

教育研究活動報告書（鈴木 孝典）

くりに多くの時間を費やしたため、十分な研究成果を上げることができなかった。来年度は、試行的に運用しているグループホーム評価支援ツールを活用しながら、指標開発に向けた統計的研究に着手する予定である。

（3）学内業務及び社会貢献活動について

まず、学内業務では、学部情報処理部会員として、鈴木裕介助教及び二本柳覚助教と協働して情報処理機材の保全を図るとともに、学部共有パソコンのセキュリティ対策を継続して実施した。また、入試実施委員として、福間隆康講師、鳩間亜紀子講師とともに、全学及び学部における入試の運営を担った。今年度は、社会人入試が新たに始まり、さらに私費外国人留学生入試において 10 年ぶりに受験生を得た。この新たな動きのなかで、入試の実施体制や評価の方法などの面で改善点を見出した。来年度の入試においては、課題を精査した上で改善に取り組みたい。

次に、社会貢献活動では、昨年度から引き続き、高知県及び高知市の障害者計画及び障害福祉計画に係る協議会に委員の立場で参加し、障害者施策の評価に携わった。くわえて、昨年度と同様に、高知県自立支援協議会人材育成部会、高知市自立支援協議会への参画を通して、教育と研究の両面から地域の相談支援専門員の養成及び実践力の向上に係る課題に取り組んだ。来年度は、障害者総合支援法の全面施行に伴う、障害者の地域相談支援体制の変化をとらえつつ、今年度の活動を発展させたい。

さらに、今年度は、昨年度に引き続き、厚生労働省の補助金事業である精神保健福祉実習演習担当教員講習会に企画委員及び講師の立場に関わり、実習演習担当教員の育成に寄与するとともに、教員を受講生とし講義を行うことで、自らの教育技能について他学の教員から評価を受ける機会を得た。来年度は、受講生の評価を参考に、教育技能の更なる研鑽に励みたい。

西内 章

Akira NISHIUCHI

○ 研究活動

1. 論文

- 1) 西内章「ソーシャルワークにおける ICT を活用した「生活認識」の研究」関西福祉科学大学大学院博士学位論文, 2014年3月.
- 2) 西内章「ソーシャルワークにおける ICT の意義と課題」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』第63巻, 39-54頁. 2014年3月.

2. 研究会

- 1) ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授 太田義弘主宰）に所属し、コンピュータアセスメント支援ツールの研究開発を行った.

○ 教育活動

[共通教育科目]

- ①「チーム形成論」

[学部専門科目]

- ①「事例研究法」
- ②「チームアプローチ」
- ③「ケアプラン策定法」
- ④「相談援助演習」
- ⑤「相談援助実習指導」
- ⑥「相談援助実習」
- ⑦「福祉研究演習Ⅰ」
- ⑧「福祉研究演習Ⅱ」
- ⑨「福祉研究演習Ⅲ」
- ⑩「地域福祉活動」

[大学院人間生活学研究科]

- ①ソーシャルワーク論
- ②人間生活論演習Ⅱ

○ 委員会活動

- ① 4回生学年担当
- ② 共通教育専門委員
- ③ 学部教務委員

○ 社会的活動

[委員等]

- ・ 高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー

教育研究活動報告書（西内 章）

- ・津野町地域包括支援センター運営協議会委員
- ・津野町地域密着型サービス運営協議会委員
- ・高知県社会福祉協議会生きがい・健康づくり推進協議会委員

[研修会講師・講演等]

- ・高知県社会福祉協議会・平成 25 年度総合相談・生活支援研修会講師「地域で展開する個別生活支援」（6月14日、11月15日）
- ・津野町教育委員会・高齢者教室講師「安心した暮らしをつくる-あなたと隣近所ができる「高齢者虐待対策」-」（7月26日）
- ・2013 年度高知県児童福祉司認定講習会講師「社会福祉援助技術論」, 「社会福祉援助演習」担当（9月3日）
- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会・基礎研修講師「社会福祉・社会保障をめぐる動向, 諸制度の変遷」（10月6日）
- ・四国老人福祉学会研究発表・第2分科会座長（2月1日）

○総合評価と課題

1. 教育活動

共通教養科目では、昨年度の「専門職連携概論」に続き、看護学部宮武陽子教授, 山中福子講師, 健康栄養学部廣内智子講師とともに IPW (inter-professional work) に関連した「チーム形成論」を実施した。今後, 授業を実施し, 継続的な評価と授業内容の改善を行う必要がある。「事例研究法」, 「チームアプローチ」, 「ケアプラン策定法」は, 相互に関連する科目であるが, 昨年度の授業をふまえて, 授業目標の具体的な提示を授業内でくり返し行うことで, これらの科目の関連性についても理解してもらえたと考えている。今後も, 日々リアクションペーパーの内容を検討するとともに, 継続的な評価・授業内容の改善を行いたい。またゼミでは, 4回生7名の卒業論文指導を行った。

2. 研究活動

研究活動では, 博士学位論文をまとめることができた。本論文では, 地域包括ケアシステムにおける ICT 活用の研究課題を整理した。その上で, この研究課題を解決するために実践理論としてジェネラル・ソーシャルワークに立脚して ICT 活用枠組みを提示し, 仮説に対応させた4段階の事例検証と考察を行った。そして 地域包括ケアシステムの構築をみすえたソーシャルワークにおける ICT を活用した「生活認識」の枠組みを提示することができた。2014 年度は, 残された研究課題に取り組むとともに, 継続的な研究会活動であるコンピュータアセスメント支援ツールの研究開発の検証作業に継続的に取り組む予定である。

3. 委員会活動

委員会活動では, 4回生の学年担当として 13 期生の学生生活, 就職活動, 国試勉強を支えるために日々取り組んだ1年であった。また共通教育専門委員として, 学部教育との連関について問題点を整理し今後の検討事項を共通教育部会へ提出することができた。これをふまえて, 2014 年度は, 社会福祉学部専門科目の移行時期でもあることから, 新カリキュラムの実施に尽力したいと考えている。

4. 社会的活動

社会的活動では, 高知県内における医療福祉, 高齢者福祉, 児童福祉のソーシャルワークについて, 地域住民や行政関係者, ソーシャルワーカーの方々が直面している課題について協議することができた。

山村 靖彦

Yasuhiko YAMAMURA

○研究活動

1. 著書

- ・山村靖彦「社会福祉の課題」井村圭壯・相澤譲治編『社会福祉の成立と課題』勁草書房、2013. 4、pp. 155-160.
- ・山村靖彦「社会的養護と地域福祉」井村圭壯・相澤譲治編『保育と社会的養護』学文社、2014. 1、pp. 119-124.
- ・山村靖彦「社会福祉協議会」「社会福祉の制度・政策・資源」長谷川俊雄・中山正雄編『実践から学ぶ社会福祉』保育出版社、2014. 3、pp. 159-162、pp. 177-179.

2. 競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤研究(C)、課題番号：23530805、平成23年度－25年度）
研究代表者：山村靖彦
研究課題名：「高齢者サロンの展開方法に関する研究—小地域別ソーシャル・キャピタル分析から」

○教育活動

1. 学部担当科目

- ・地域福祉の理論と方法
- ・コミュニケーションソーシャルワーク
- ・相談援助演習
- ・相談援助実習指導
- ・相談援助実習
- ・福祉研究演習Ⅲ

○委員会活動

1. 全学

- ・地域教育研究センター 生涯学習部会（副委員長）
- ・高知医療センター高知県立大学包括連携協議会 看護・社会福祉連携部会
- ・健康長寿センター運営委員会
- ・COCワーキンググループ

2. 学部

- ・総務・予算委員会
- ・個人情報保護・研究倫理審査委員会

○社会的活動

1. 委員等

- ・高知市地域福祉計画推進協議会委員（委員長）
- ・高知市社会福祉協議会 地区社協活動助成事業審査会委員（委員長）
- ・高知県社会福祉協議会 福祉教育の新たな展開に向けた検討委員会委員

2. 講演等

- ・「須崎福祉保健所管内民生委員ブロック別研修会」講演「地域で孤立を防ぐ—民生児童委員の役割」（7月19日）
- ・「高知県社会福祉協議会 地域福祉の課題別研修」講演「閉じこもりがちな高齢者—高齢者の孤立」（8月19日）

教育研究活動報告書（山村 靖彦）

- ・「全国保育士養成協議会 九州ブロックセミナー大会」代表者討議「『変革の時代』における保育士養成—『保育士の視点』の育み」（8月26日）
- ・「高知市瀬戸東町 成人講座」講演「支え合いのまちづくり」（9月29日）
- ・「高知県立大学 社会福祉学部リカレント講座」講師「地域福祉を考える—ソーシャル・キャピタルの視点から」（11月2日）
- ・「本山町社会福祉大会」講演「社会的孤立と地域の見守り」（11月22日）
- ・「幡多福祉保健所管内地域福祉関係職員研修会」講演「高齢者の孤立を考える—地域づくりを視野に」（1月23日）

3. その他

- ・高知小津高等学校「大学出前講義」（6月27日）
- ・高知市社会福祉協議会「地域支援事例検討会」スーパーバイザー（9月—3月 計7回）
- ・高知医療センター・高知県立大学包括連携事業 担当「社会的孤立をめぐって」（12月18日）

○総合評価及び今後の課題

教育活動では、講義面において本年度は特に、①「資料の作成」と②「視聴覚教材の利用」において工夫を重ねた。資料は毎回A4サイズで概ね4枚用意し、テキストの補足や関連する新聞等の記事、統計等を掲載した。視聴覚教材については、主にテレビのドキュメント番組等を編集し、視聴したあとの解説および学生によるディスカッションを通じて考察を深めた。次年度は上記に加え、③「話し方」について具体的な工夫を凝らしたいと考えている。なお、今後はいずれの科目においてもテキストは指定せず、講義資料の充実により進めていこうと考えている。これら講義の方針・あり方については、適宜行う「授業評価アンケート」の結果をみながら、柔軟かつ謙虚に対応していきたい。また、卒論指導では5名を担当した。赴任したばかりで不慣れなところもあったが、学生個人の状況に合わせ、きめ細かく指導するように努めたことで、個々の論文の質を高めることができたと思っている。

研究活動では、本年度は科学研究費補助金の最終年度であった。この成果については、2014年度にまとめたいと思っている。その他は、共著2点にとどまってしまったことから、次年度は積極的な研究活動を展開していきたいと考えている。

委員会等の活動は全学4つ、学部2つを担った。中でも全学でのCOCワーキンググループに参加した意義は大きいと感じている。また次年度は、総務・予算委員長を担う予定となおり、これに関しては公大協社会福祉学系部会連絡会の開催校としての実施担当者ともなることから、不安も多いが責任感を持って全うしたいと考えている。

社会活動では、外部での委員や講演活動について、年度当初の予想を上回る依頼を受けた。今後も社会貢献を念頭に積極的な活動を心がけていきたい。

なお、「教育活動」、「研究活動」、「委員会活動」、「社会活動」等については、それぞれを結びつけて捉え、自身の研究や学生への還元を意識しながら取り組んでいくことが課題であると考えている。特に、次年度はCOCに係る取り組みが増えそうなことから、上記の意識化は重要になると考えている。

○研究活動

1. 論文

- ・遠山真世（2014）「障害者雇用・就労政策の行方—障害者権利条約の実効化に向けた論点の抽出」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』第 63 巻，pp. 55-70.

2. 著書

- ・遠山真世（2013）「障害のある人が暮らしを創る」坂田周一監修『新・コミュニティ福祉学入門』有斐閣，pp. 177-184.
- ・遠山真世（2014）「量的調査の性質」福祉臨床シリーズ編集委員会編『社会福祉士シリーズ 5 社会調査の基礎 [第 2 版]』弘文堂，pp. 30-36.

3. 学会参加

- ・日本社会福祉学会
- ・日本社会学会
- ・福祉社会学会

4. 研究会参加

- ・社会支援雇用研究会

○教育活動

- ・相談援助演習
- ・相談援助実習
- ・相談援助実習指導
- ・社会福祉ふれあい実習
- ・社会福祉基礎演習
- ・障害者に対する支援と障害者自立支援制度

○委員会活動

1. 全学

- ・広報専門委員会（大学案内・オープンキャンパス専門委員会）
- ・総合情報センター運営委員会（図書部会）

2. 学部

- ・実習委員会
- ・広報委員会
- ・国試対策ワーキンググループ
- ・福祉実習支援室長

○社会的活動

- ・高知県立宿毛高等学校 模擬授業 講師（2013 年 7 月 12 日）
- ・要約筆記者養成講座 講師（2013 年 9 月 7 日、2014 年 1 月 18 日）
- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント講座 講師（2013 年 12 月 7 日）

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動について

本年度は論文1本、著書（共著）2本を執筆した。論文では、障害者権利条約を実効性のあるものとするために、さらなる議論が必要な点について考察を深めることができた。著書では、これから障害者福祉を学ぼうとする学生に向けて、障害のある人々と積極的に関わることの意義を発信することができた。また社会福祉士国家試験テキストでは、量的調査の特徴について重要なポイントをわかりやすく解説することができた。今後は、高知県をフィールドとして障害者の雇用・就労に関する調査を行いつつ、問題を解決し平等な社会を実現するための法律・制度について検討していきたい。

2. 教育活動について

講義では、パワーポイントを用いてポイントを明確化しつつ、理解しやすい授業を心掛けた。パワーポイントとは別にレジюмеを作成し、重要事項を穴埋め式に記入できるように工夫した。ビデオを用いて障害者の活動の実際が伝わるようにするとともに、リアクションペーパーで学生の理解度や考えを把握するようにした。演習では、グループでのディスカッションや発表、ロールプレイを取り入れ、自ら考えたり意見を出し合ったりして議論を深める機会を多く設けた。講義・演習とも小テストや宿題を課し、授業外の時間で予習・復習に取り組みつつ、自分の理解度を確認できるよう配慮した。

実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、それを的確に文章化したりできるように留意した。また、グループでブレインストーミングを行い課題を抽出したり、カードや模造紙を用いて課題を整理したりする方法も試みた。そうした取り組みは、実習連絡協議会での学生による実習成果の発表につながった。今後も引き続き多様な授業方法を盛り込み、学生の理解や考察が深まるようにしていきたい。

3. 委員会活動等について

本年度は、全学広報委員としてオープンキャンパスの学部プログラムを運営したことが、とくに大きな活動であった。学部の先生方や学生に多くのご協力をいただき、活気あふれるプログラムを実施することができた。また後期からは福祉実習支援室長に任命され、支援室等の業務の把握に努めるとともに、業務をより円滑に遂行できるよう検討した。今後さらに委員会や支援室の業務にかんする理解を深めるとともに、業務の効率化やスムーズな連携を図っていきたい。

4. 社会活動について

本年度は着任初年度であったが、いくつかの社会活動に携わることができ、学外の組織・団体との関係づくりを行い、地域の人々とも関わりをもつことができた。今後は本年度の活動を継続するとともに、さらに活動の幅を広げ、地域社会に貢献できるようにしたい。

西梅 幸治

Koji NISHIUME

○研究活動

（1）研究会参加

- 1）エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加
- 2）高知県子育て支援研究会への参加

（2）論文等

論文

- 1）西梅幸治（2013）「社会福祉士養成におけるソーシャルワーク演習教育－エンパワメント実践の思考枠組みとの関連から－」『ソーシャルワーク学会誌』27，日本ソーシャルワーク学会，17-29.
- 2）西梅幸治・加藤由衣・岡村奈緒美（2014）「スクールソーシャルワークにおけるストレングス・アセスメントの意義と課題－子ども，家族，学校，地域を見通して－」『高知県立大学紀要』63，71-85.

○教育活動

（1）担当科目

- ・「相談援助の理論と方法」
- ・「相談援助演習」
- ・「福祉研究演習ⅠL」
- ・「福祉研究演習ⅡL」
- ・「福祉研究演習ⅢL」
- ・「社会福祉ふれあい実習」
- ・「相談援助実習指導」
- ・「相談援助実習」

（2）クラブ活動

- ・グローバルクラブ顧問
- ・手話サークル顧問

○委員会活動

学部

- ・実習委員会（社士主担当）
- ・国試対策WG（長）
- ・広報委員会
- ・就職委員会
- ・日本社会福祉士養成校協会担当

○社会的活動

- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・高知市教育研究所 運営委員
- ・日本社会福祉士養成校協会中国四国ブロック 運営委員
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 通信課程講師
- ・要約筆記者ステップアップ講習会 講師「社会福祉と基本的人権」（2013年8月17日）
- ・高知県東部ブロック主任児童委員研修会 講師「学校現場の状況とスクールソーシャル

教育研究活動報告書（西梅 幸治）

ワーカーの役割」（2013年8月28日）

- ・要約筆記者ステップアップ講習会 講師「対人支援」（2013年9月14日）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」（2014年2月1日）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

研究活動については十分とはいえませんが時間を割き、継続的に研究を行った。特にソーシャルワークにおけるエンパワメント実践については、その教育的側面に焦点化し考察を行った。またスクールソーシャルワークについてもアセスメントに関して研究した成果を公表することができた。

（2）教育活動について

講義・演習：

授業では、パワーポイントで作成したレジメを作成・配付し、シラバスに従い学生が理解できるように工夫した。そして毎回の授業開始時には、前回の復習をすることで知識の定着を図った。またレジメの他にも、DVDなどの視覚教材の活用や演習のための事例を取り入れ、学生の理解度を高めるように努めた。学生からのフィードバック・コメントについては毎回実施し、それに応じて授業展開の修正ならびに追加資料の配付などを行った。今後も、理論と実践を融合した展開の修得や国試対策も見据えた工夫を重ねていきたい。

実習指導：

実習科目では、個別指導やスーパービジョン、学生同士がお互いに共感し、考え方を深めることを重視してきた。今年度は実習巡回時にソーシャルマナーや実習に対する積極性の点で指摘を受けた学生がいた。そのため実習後のスーパービジョン過程でその点からの振り返りをすすめ、社会性や専門職としての姿勢が確実に身につくような指導に努めた。

卒論指導：

今年度は、6名の学生の指導を行った。学生たちの状況にあわせて個別に、かつゼミでの相互作用をとおして指導に取り組んだ。今年度は、個別およびゼミ学生相互の意見交換をとおした指導を行ったことで、個々の論文内容の質を高めることができた。

（3）委員会活動・社会的活動について

本年度はまず、相談援助実習（社会福祉士）主担当として、相談援助実習指導、相談援助実習、相談援助演習の効果・効率的、および統合的な授業運営に先生方の協力を得ながら努めることができたのではないかと思う。また国試対策ワーキンググループ長としては、4年生自らが受験対策を行うための支援システム構築への課題を見出すことができたと感じている。

社会的活動に関しては、高知県スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザーとして6年目であり、本学と高知県教育委員会の連携に関して一定の役割を担うことができたと思う。また要約筆記者の養成についても尽力することができたと感じている。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に貢献できるように取り組んでいきたい。

鳩間 亜紀子

Akiko HATOMA

○ 研究活動

1 論文

- ・ 鳩間亜紀子・星野真理子・栗田祐介（2014）「介護老人福祉施設におけるライフストーリーブック作成の取り組み」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』63, 163-169.

2 発表

- ・ 鳩間亜紀子（2013）「デイサービスにおける送迎業務の現状；事故等の実施把握に向けた予備調査の結果から」『第21回日本介護福祉学会大会発表報告要旨集』（熊本学園大学），86.

3 その他

- ・ 新日本法規出版「第9回実務家支援セミナー『介護事故における注意義務と責任』」参加．2013年10月29日
- ・ 日本福祉のまちづくり学会関東東北陸支部講演「バス車両内の車いす固定の問題について」参加．2013年12月14日

4 競争的資金等の獲得状況

- ・ 日本学術振興会平成25年度科学研究費助成事業，基盤研究（C），「在宅における高齢者の移送をめぐる事故の実態」研究代表者
- ・ 一般社団法人高齢期運動サポートセンター2013年度研究助成「ホームヘルパーが行う生活援助が高齢者に及ぼす影響」（研究代表者：共に介護を学びあい・励まし合いネットワーク主宰 藤原るか）研究分担者

○ 教育活動

[共通教育教養科目]

- ・ 社会福祉論

[学部科目]

- ・ 高齢者に対する支援と介護保険制度
- ・ 相談援助演習
- ・ 相談援助実習指導
- ・ 相談援助実習
- ・ 福祉研究演習Ⅰ
- ・ 福祉研究演習Ⅱ
- ・ 福祉研究演習Ⅲ

○ 委員会活動

[全学]

- ・ 国際交流委員
- ・ 入試実施委員

[学部]

- ・ 実習委員

- ・ 学生委員（第 15 期生学年担当）

○ 社会的活動

- ・ 高知学園短期大学看護学科 非常勤講師（「看護と福祉」担当）
- ・ 平成 25 年度介護福祉士国家試験委員
- ・ 2013 年度オープンキャンパス（体験授業）「少子高齢化と高齢者を支援するという
こと」2013 年 8 月 4 日
- ・ 神奈川県立保健福祉大学実践教育センター「平成 25 年度 保健福祉大学実践教育
センター実践研究 実習指導者養成教育（介護福祉士）」教育効果測定に関する調
査研究への助言指導

○ 総合評価及び今後の課題

教育活動については、ミニテストの実施、リアクションペーパーへの回答、グループワーク等によって学生の理解を促す工夫に努めた。「高齢者に対する支援と介護保険制度」では、定期的に新聞記事や視聴覚素材を用いることで、学生の関心や理解を深めることができたと思われる。「相談援助演習」では、学生がロールプレイに取り組む中で、相談援助職としての自らの姿勢に気づくことが出来るよう働きかけることが出来た。今後も学生の理解を深めるため、講義資料の見直し、予習復習を促すこと、達成度が低い学生への具体的な対応等について継続的な課題とし取り組みたい。

学年担当である 2 回生に対しては、橋本助教と協力し個別面談の実施やサポートを要する状況の把握に努めた。特に今年度は、学生の生活支援や学修継続に関わる対応に年間を通してかなりの時間を割かざるを得なかったが、出来る限りの対応は行ったと考えている。講義を中心とする学内業務とのバランスも考慮しつつ、今後も学生の主体性を促しながら、来年度ゼミ担当者とも連携し学生支援ができるよう努力したい。

委員会活動では、入試業務と国際交流を中心に他の担当者と協力して業務にあたった。入試業務については、社会人入試の導入や私費外国人留学生入試の実施など学部にとっても少ない経験値で対応せざるを得なかった。国際交流については池キャンパス 3 学部が共同で留学生を受け入れるイベントを開催するため、学生主体での企画となることを意識した支援を行った。留学生・受験者いずれも、学部が受け入れる学生の多様化が見られるため、今後も通常業務を滞りなく行うことと学内での連携に努めたい。

研究活動については、いずれも訪問介護にかかわる研究課題で科学研究費補助金及び民間団体助成金を獲得することができた。関係するセミナー等への参加やインタビュー調査の実施、介護実務者との共同研究等の計画は遂行できたが、論文執筆を行うことが困難だったため、成果発表の機会も乏しいものとなってしまった。継続的な研究活動を実施できるよう努力したい。

福間 隆康

Takayasu FUKUMA

○研究活動

（1）論文

1. 福間隆康「サービスの質が利用者満足度に及ぼす影響—高齢者デイサービスセンターの利用者を対象とした実証研究」『介護福祉学』第20巻第1号, 15-22頁, 2013年4月。
2. 福間隆康「ケアワーカーのキャリア志向と人的資源管理との適合に関する予備的考察」Discussion Paper Series, No. 2, The Management Society of Hiroshima University, 2013年4月。
3. 福間隆康「介護サービス向上に資する組織コミットメントの媒介効果に関する予備的考察」Discussion Paper Series, No. 4, The Management Society of Hiroshima University, 2013年5月。
4. 福間隆康・原口恭彦「キャリア志向と人的資源管理との適合—介護サービス組織のケアワーカーを対象とした定量的分析」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第63号, 87-102頁, 2014年3月。

（2）学会報告

1. 福間隆康「人的資源管理施策が組織パフォーマンスに与える影響—組織コミットメントの媒介効果と個人-職務適合の調整効果」日本経営学会第87回大会（関西学院大学）, 2013年9月。

（3）競争的資金の獲得状況

1. 平成25年度～27年度 日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（C））「サービス業における人材マネジメント・モデル構築に関する研究」（共同研究・研究分担者）
2. 平成25年度 全労済協会委託調査研究助成金「障がい者の雇用と企業の新しい人的資源管理システム」（単独研究）

○教育活動

1. 福祉対象入門
2. 福祉援助入門
3. 福祉サービスの組織と経営
4. 福祉研究演習Ⅰ
5. 福祉研究演習Ⅱ
6. 福祉研究演習Ⅲ
7. 地域福祉活動Ⅱ
8. 相談援助演習
9. 相談援助実習指導
10. 相談援助実習

11. 社会福祉ふれあい実習

○委員会活動

(1) 全学

1. 健康長寿センター運営委員
2. 入試実施委員

(2) 学部

1. 社会福祉研究個人情報保護・倫理審査委員
2. 学生委員（第14期生学年担当）
3. 実習委員

○社会的活動

1. 日本労務学会理事
2. 高知県社会福祉士会理事
3. 介護ケア研究会第30回定例会講師「介護マネジメントと職員のモチベーション」(高知県立大学)，2013年9月。

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動

科学研究費補助金（基盤研究（C））の研究分担者として成果の一部を研究紀要に掲載することができた。次年度は、全労済協会委託調査研究の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し、研究成果の形として、学会報告を行う予定である。

2. 教育活動

各授業では、能動的な学習や共同学習に重点を置き、学生を知的な発見に取り組みさせるよう努めた。学生には講義を聴くだけでなく、より発展した疑問を考えさせたり、自分の意見を発表させたりするよう努めた。今後は、学生による授業評価に基づき授業を改善し、魅力ある授業を実施していきたい。

3. 社会的活動

高知県社会福祉士会の国家試験対策において、全国統一模擬試験および国家試験対策勉強会を実施し、受験に向けた意欲の向上や受験勉強の継続の一助となった。介護ケア研究会において、参加者の関心のある問題を把握する機会を得ることができた。今後は、高知県内の企業等との共同研究や情報提供などを通じ、産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

三好 弥生

Yayoi MIYOSHI

○研究活動

1. 論文

三好弥生・上田恵理子（2014）「特別養護老人ホームにおける看取りの現状と課題－参与観察を通して－」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』63、103-117。

2. 著書

なし

3. 発表

なし

○教育活動

1. 学部担当科目

「コミュニケーション技術」

「高齢者に対する支援と介護保険制度」

「介護総合演習Ⅰ」

「介護総合演習Ⅱ」

「生活支援技術Ⅳ」

「生活支援技術Ⅴ」

「障害の理解Ⅰ」

「介護実習Ⅰ」

「介護実習Ⅱ－①」

「介護実習Ⅱ－②」

「福祉研究演習Ⅰ」

「福祉研究演習Ⅱ」

「福祉研究演習Ⅲ」

○委員会活動

1. 全学

・学生委員

2. 学部

・学生委員（4回生学年担当）

・就職委員

・教務委員

・実習委員

○社会的活動

2014年11月 日本介護福祉士会総会

○総合評価及び今後の課題

1. 研究活動について

「高齢者の看取り」について研究を継続しており、引き続き 25 年度も 3ヶ所の特別養護老人ホームの参与観察を実施した。しかし、その後 4 回生の就職支援や学生委員などの業務が多忙となり、研究活動は停滞してしまった。次年度こそ、計画的に研究を進めていきたい。

2. 教育活動について

今年度介護コースは完成年度を迎え、1 回生から 4 回生までが揃い初めて卒業生を送り出すこととなった。介護福祉士としての就職支援に加え、介護福祉士養成施設協会による卒業時共通試験や介護福祉資格登録に関する手続きなど、滞りなく進めていく必要があり気の抜けない 1 年となった。

新年度はカリキュラムに追加された「医療的ケア」を初めて教授することになっている。先行して実施している他校より、授業展開に様々な課題があることが報告されており、余裕を持って準備していきたい。

○研究活動

1. 論文

- ・石川由美（2013）「介護支援専門員の要援護者に対する防災支援における現状と課題—先行文献による検討から—」『ケアマネジメント学』2013，第12号。

2. その他

- ・東日本大震災被災地福祉労働者実態調査実行委員会活動
「事例研究による、放射線被害を含む東日本大震災による影響を想定した福祉労働実践と、新たな支援基準の提案—宮城県，福島県の福祉労働者の果たした役割に関する追跡調査—」

○教育活動

1. 学部担当科目

- ・コミュニケーション技術
- ・発達と老化の理解 I
- ・介護総合演習 I
- ・介護実習 I
- ・社会福祉入門演習
- ・介護技術（オムニバス）
- ・地域福祉活動 II D

○委員会活動

- ・学部教務委員会
- ・学部実習委員会
- ・災害対策プロジェクト災害対策連携部会

○社会的活動

- ・高知市介護認定審査会審査委員

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

今年度は前期にて退職することとなり，学生とは半期のみに関わりであった。

講義科目では，主に1回生を担当した。初めて福祉を学ぶ学生に対してとくに重きを置いた点は，多様な福祉ニーズを抱える社会や個人について理解を深め，柔軟かつ真摯に向き合う姿勢を身に付けてもらうことであった。実際の福祉現場での事例に基づく検討や，介護に関する今日的課題についての検討など，学生が個人・専門職それぞれの立場で考え言葉として表現する機会を多く設けた。

実習に関しては，2回生の介護実習 I・介護総合演習 Iを担当した。実習目標の達成に向けて過度の緊張やストレスをためることがないように，こまめに連絡や面談の機会を持ちサポートに努めた。

教育研究活動報告書（石川由美）

2. 研究活動について

今年度は、物部地区で実施した介護支援専門員への調査データを分析し論文を執筆した。諸事情により思うように研究が進まなかったが、今後は、災害時の高齢者福祉現場の役割について、収集した文献の整理から研究課題を明確にし、さらに研究を深めていきたい。

3. 社会活動について

東日本大震災被災地福祉労働者実態調査実行委員会のメンバーとして、全国福祉保育労働組合の方々と共同で調査・研究活動を行った。震災時、利用者の命を守る支援のあり方を研究することと並行して、福祉労働者の果たした役割を明らかにし、福祉労働者への支援のあり方についても検討を行った。

○研究活動

- (1) 論文・報告書・著書・発表 なし
(2) 学内外の競争的資金の獲得状況 なし

○教育活動

(1) 講義

精神保健福祉援助技術各論、精神保健福祉援助演習、精神保健福祉援助実習
精神保健福祉ふれあい実習、精神保健福祉援助技術総論

(2) 講義以外

1. 実習支援

配属実習に備えて実習の動機・課題の深化および実習計画作成のための個別指導を実施した。

2. 国家試験受験生への学習支援

精神保健福祉士国家試験受験者に対して、「精神科リハビリテーション学」にかかわる受験対策講座を開講した。

3. 太鼓部顧問

○委員会活動

実習委員、入試委員、防災委員、国試対策支援ワーキンググループ委員

○社会的活動

日本精神保健福祉学会 事務局員

○総合評価と今後の課題

昨年8月に第一子を出産し、1年あまりの育児休業を経て9月に職場復帰した。1年間仕事を離れると、当然その間に業務や職場環境に変化があり、福祉関連の制度も改正されている。復帰後、その変化に追いつき、育児と仕事を両立することは容易ではなかったが、周りの先生方から温かなご指導やご配慮をいただき、無事年度を終えることができた。

講義科目については、「精神科リハビリテーション学」が担当から外れ、これまで教員2名体制で行っていた「精神保健福祉援助技術各論」を一人で担当した。しかし、復帰後は学内における教育活動が中心となり、研究活動ができていない。来年度は、新たに「社会調査の基礎（質的調査に関する部分のみ）」「社会福祉基礎演習」等を担当することになっている。教育活動に終始せず、研究活動を計画的に進めていくことが課題である。

加藤 由衣

Yui KATO

○研究活動

（1）学術論文

- ・西梅幸治・加藤由衣・岡村奈緒美（2013）「スクールソーシャルワークにおけるストレングス・アセスメントの意義と課題—子ども，家族，学校，地域を見通して—」『高知県立大学紀要』63, 71-85.

（2）学会参加

- ・日本社会福祉学会
- ・日本ソーシャルワーク学会

（3）研究会参加

- ・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

（4）学外の競争的資金の獲得状況

- ・文部科学省科学研究費補助金（挑戦的萌芽研究）「離島の福祉施設職員に対する専門的スキルアップ・システムの研究」（研究代表者：中村佐織）（平成25年～27年度）における研究分担者

○教育活動

（1）担当科目

- ・「相談援助の理論と方法」
- ・「社会福祉入門演習」
- ・「相談援助演習」
- ・「相談援助実習」
- ・「社会調査の基礎」
- ・「社会福祉基礎演習」
- ・「相談援助実習指導」
- ・「社会福祉ふれあい実習」

○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部学生委員会
- ・第16期生学年担当
- ・学部教務委員会
- ・国試対策支援ワーキンググループ

○社会的活動

（1）学外講師等

- ・南国市スクールソーシャルワーカー
- ・学校法人すみれ学園高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）

○総合評価及び今後の課題

（1）研究活動について

ソーシャルワーク現任教育研究に関しては十分な時間を割くことができず、積極的な研究活動を行うことができなかった。しかし、スクールソーシャルワーカーとしての実

教育研究活動報告書（加藤 由衣）

実践活動について、事例分析から理論的に探究し、その成果を論文にまとめることができた。次年度は、理論と実践の双方向からのスクールソーシャルワーク実践方法の研究に継続して取り組むとともに、ソーシャルワーク現任教育の研究を計画的に進めていきたい。

（２）教育活動について

講義・演習では、グループワークやロールプレイを取り入れた授業内容や事例を用いた説明、パワーポイント・視聴覚教材の使用など、学生の主体的な参加と動機づけを高める授業を計画し、学生の理解を深めるツール・教材の工夫をした。また、本年度初めて担当した社会福祉入門演習・基礎演習では、リテラシー教育を基礎に学生が大学での学び方を習得できるように、グループ学習による相互学習などを組み込んだ授業の工夫をした。今後も、リアクションペーパーを活用した学生からのフィードバックをもとに授業の改善を図りつつ、学生の理解を促進できるよう努めていきたい。

実習教育では、福祉実習支援室での学生支援と実習科目での指導に携わった。特に、介護コースの学生や男子学生を含む 70 名を超える学生に対して、きめ細やかな指導やサポートが行えるよう、他の教員と連携し全体の状況把握に努めた。また本年度は、学生が実習の学びに対して意味づけできるように、実習後のスーパービジョンやグループ学習によるふり返りを重視した実習教育を行った。

4 回生の国家試験対策の支援では、個別面談の実施や学習環境づくりなどの学習支援を行ってきた。特に、学生の受験に対する意識づけや計画的な学習をサポートできるように、個々の状況に応じた個別面談の実施を重視し、学生の支援に携わることができた。今後も学生全体の士気を高めつつ、丁寧な個別対応を心がけ、国家試験合格率の維持・向上に貢献していきたい。

鈴木 裕介

Yusuke SUZUKI

○研究活動

- ・鈴木裕介（2014）「医療に関連する福祉的課題の文献検討―地域で暮らす高齢者のフェルトニーズに焦点化して」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』63, 119-128.

○学会発表

- ・岡田阿子・鈴木裕介・上白木悦子・ほか（2013）「ソーシャルワーカーに対する院内職員の認識（第一報）―急性期病院における転退院」第15回医療マネジメント学会.

○教育活動

- ・医療ソーシャルワーク論
- ・ケアマネジメント演習
- ・相談援助演習
- ・社会福祉ふれあい実習
- ・相談援助実習指導
- ・相談援助実習

○委員会活動

- ・高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会委員 学部
- ・情報処理委員
- ・実習委員
- ・総務委員
- ・国試対策支援ワーキンググループ

○社会活動

- ・社会福祉士会による社会福祉士国家試験受験対策勉強会（日程：平成26年1月11日，会場：高知県立大学）
- ・「第一回 高知県ソーシャルワーカー3団体合同実践報告会」グループⅢ座長（日程：平成25年7月20日，会場：高知県立大学）

○総合評価と今後の課題

（1）研究活動について

昨年度と比較すると本年度は、研究時間の確保ができたが、全体の業務量に占める割合は少ない。今年度は、先行研究の整理を行い、中山間地域で暮らす高齢者の医療福祉

教育研究活動報告書（鈴木 裕介）

ニーズを調査するため、インタビューを開始した。来年度はさらにインタビュー調査を行うことと、アンケート用紙を用いて量的調査を行う予定である。

（2）教育活動について

講義は、昨年に引き続きソーシャルワーク理論と実践現場の循環を意識して行った。具体的には、理論についての講義の直後にロールプレイを行い、具体的実践過程を理解できるよう努めた。特に利用者理解に力を入れて事例作成から取り組み、利用者像を具体的にイメージできるように心掛けた。また、リアクションペーパーにより自己評価、授業に対する理解・質問等の確認を行った。学生の理解度を確認しながら、講義の修正や重要点の再教育を行うことができた。

実習教育は、実習マナーと倫理を重点的に行った。しかしながら実習マナーで多くの課題が残ったため、事後学習で丁寧に振り返りを行った。また、グループディスカッションを行い、課題や気づきを共有化することによって学びを深めた。アセスメントや面接などまで体系的に実習することは難しかったが大切なことはきちんと学習できたと思う。

（3）委員会活動・社会活動について

高知医療センターの医療ソーシャルワーカーと共同研究を行っており、日本医療マネジメント学会へ発表を行った。テーマは、「ソーシャルワーカーに対する院内職員の認識（第一報）—急性期病院における転退院」である。来年度も継続して本研究に取り組む予定である。

○研究活動

1. 論文

田中眞希・宮上多加子（2013）「離職者を対象とした介護人材養成教育に対する教員の認識」『介護福祉教育』36号，40－48.

宮上多加子・田中眞希（2014）離職者を対象とした介護福祉士養成事業修了生の介護に対する認識と仕事の信念『高知県立大学紀要社会福祉学部編』63，151-161.

2. 学会発表

宮上多加子・田中眞希：離職者を対象とした介護福祉士養成事業修了生の介護に対する認識，日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第45回徳島大会，2013年7月

田中眞希・宮上多加子：離職者対象の介護人材養成事業の課題—事業利用学生と行政の立場から—，日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第45回徳島大会，2013年7月

○教育活動

- ・介護の基本Ⅰ
- ・介護の基本Ⅲ
- ・生活支援技術Ⅰ
- ・生活支援技術Ⅱ
- ・生活支援技術Ⅲ
- ・生活支援技術Ⅳ
- ・介護総合演習Ⅰ
- ・介護総合演習Ⅱ
- ・介護実習Ⅰ
- ・介護実習Ⅱ
- ・障害の理解Ⅱ
- ・介護技術（オムニバス）

○委員会活動

- ・学部総務・予算委員会
- ・学部実習委員会
- ・学部広報委員会
- ・学部就職委員会

○社会的活動

1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニアム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員

2. 講演等

- ・高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座 講師「テーマ:持ち上げない介護」
10月5日

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

平成 25 年度は 1 期生が 4 回生となり、介護福祉コースの 1～4 回生全ての学年がそろった初めての年度であった。授業や実習など 4 回生への直接的な支援はあまりないが、就職支援や介護福祉士の登録に向けての事務作業など、初めてのことで試行錯誤しながらの 1 年であった。そのため、1～4 回生それぞれの学年がどのような状況に置かれているのか、またその中で学生にどのようなニーズがあるのか把握できていたとは言えず、学生個々に十分な対応をすることが難しかったのではないかと感じた。次年度は、あらかじめ想定できる準備などに取り組み、柔軟に対応できるよう日頃から態勢を整えたい。

介護実習開始から 3 年が経過し、施設・事業所との関係もできてきたのではないかと感じている。介護実習実施時期などの見直しにより、次年度は年間 4 回介護実習を行うこととなっている。そのため、実習施設・事業所と今まで以上に連絡を取り、よりよい関係を築いていきたいと考えている。

担当科目について、学生が授業に参加しやすい環境をつくることを心がけた。具体的には、新聞記事などを活用しグループワークやディベートなどを行った。これらの演習を取り入れたことは、教員からの一方的な講義だけでなかったため、主体的に取り組めたと学生から好評であった。演習科目では、個別に多様である生活支援技術について、困惑しないように伝えることや、学生の質問に具体的に応えるように心がけた。しかし、介護技術について戸惑った内容があったとの評価が一部あったため、伝え方を工夫するなどの改善が必要であると感じた。

介護実習、授業ともに、学生の意見などを聴取し、より分かりやすい授業や実習指導を展開したいと考えている。

2. 研究活動について

一昨年度より離職者を対象とした介護福祉士養成事業について、調査を行ってきた。さらに今年度は、介護職を経験したのちに准看護師養成校へ進学した学生への調査を行い、進学を決めた思いや現在の思いなどを聞くことができた。これらの結果をまとめ、介護人材確保や介護人材養成のあり方について考察できるようすすめたい。

3. 社会活動について

今年度から次年度の 2 年間、日本介護福祉士養成校協会高知県の代表校としての役割や活動があった。介護福祉士養成校の課題は学校によりさまざまであるが、養成校教員同士が交流できる場となるよう、次年度も取り組んでいきたい。

地域での活動は介護福祉実習等での関係を大切に、少しでも社会に貢献できる活動を行うように心がけたいと考えている。

二本柳 覚

Akira NIHONYANAGI

○ 研究活動

1. 論文

- 1) 二本柳覚 (2014) 「社会福祉専門職養成における実習導入教育の果たす役割 —受講生に対するアンケート調査から—」(査読あり)『日本社会福祉教育学会誌』9・10 合併号, 印刷中.

2. 学会発表

- 1) 二本柳覚・高梨未紀・鈴木由美子ほか (2013) 「社会福祉専門職養成における実習前教育に関する一考察 —ソーシャルワーク実習入門受講生に対するアンケート結果から—」日本社会福祉学会第 61 回秋季大会, 2013. 9.

3. その他

- 1) 二本柳覚 (2013) 「第 2 章 精神保健の課題と支援」「第 4 章 精神保健福祉の理論と相談援助の展開①」「第 5 章 精神保健福祉の理論と相談援助の展開②」「第 6 章 精神保健福祉に関する制度とサービス」精神保健福祉士試験対策研究会 著『福祉教科書 精神保健福祉士 出る！出る！一問一答 専門科目』, 翔泳社.
- 2) 田中千枝子・鈴木由美子・二本柳覚ほか (2014) 『スモンソーシャルワークハンドブック ～ソーシャルワーカーを知っていますか？～』平成 25 年度厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業「スモンに関する調査研究」研究代表者：小長谷正明(国立病院機構鈴鹿病院) 研究分担者：田中千枝子(日本福祉大学)

○ 教育活動

- ・精神科リハビリテーション学
- ・地域福祉活動
- ・精神保健福祉援助実習
- ・精神保健福祉援助演習
- ・精神保健福祉ふれあい実習

○ 委員会活動

- ・教務委員
- ・入試実施委員
- ・情報処理委員
- ・実習委員
- ・災害対策プロジェクト災害対策連携部会
- ・国試対策ワーキンググループ

○ 社会的活動

- ・2013 年度高知県児童福祉司認定講習会講師「障害者福祉論」担当
- ・日本精神保健福祉学会事務局員
- ・日本学校ソーシャルワーク学会地区世話人

○総合評価及び今後の課題

（１）研究活動について

本年度の研究活動結果は論文が1本、報告が1本であった。論文については年に1本のペースを死守することが出来、ほっとしているが、より活発な取り組みを行いたい。しかしながら、科研費等外部資金の獲得には至っておらず、今後外部資金の獲得、それによる研究活動の活発化を目指したい。

（２）教育活動について

本年度担当した「精神科リハビリテーション学」では、教科書のみでなく、視聴覚教材も含めて興味関心を持ちやすくなるような構成になるよう意識して運営を行った。また講義の最後に、よくあるリアクションペーパーではなく、講義に対する「質問」を書かせる事によって、講義内容について意識的に取り組めるよう試みた。結果として、すべての学生ではないが、継続的に実施することで、質問の質に向上が見受けられた。

地域福祉活動では、他県自治体による地域支援の実際について、見学を中心とした学習をおこなった。県立大学として高知県の実情を理解する学習は多々用意されているが、今回のように県外の取り組みを学び、それを高知県、また自身の地元に戻元する学習は、非常に意味のあるものであったと考える。

実習指導に関しては、事前学習、実習巡回、事後学習と、本学に赴任して以来、初めて一貫した教育を行うことが出来た。出来る限り実りある実習になるように心がけた指導を行ったが、学生がどの程度の学びを深めることが出来たか、十分に測ることはできなかった。今後卒業後教育を含めた取り組みを行っていくことが必要であると考えている。

（３）その他

赴任後1年をようやく経過し、業務についてもある程度慣れることが出来た。今後は高知県に根ざした研究の実施を進めていくとともに、県立大学の教員として、県民に戻元できるような取り組みを実施していきたい。

○ 研究活動

1. 論文

なし

2. 競争的資金の獲得状況

平成 24 年度科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金 若手研究 B）「介護支援専門員によるインフォーマル・サポート活用の支援プロセスに関する研究」、研究代表者 橋本力（平成 24～25 年度）

○ 教育活動

- ・ 相談援助実習指導
- ・ 相談援助演習
- ・ 社会福祉入門演習
- ・ 社会福祉基礎演習
- ・ 虐待防止論
- ・ 社会調査の基礎
- ・ 高齢者に対する支援と介護保険制度

○ 委員会活動

- ・ 広報委員
- ・ 健康長寿委員センター委員
- ・ 学生委員（15期生学年担当）
- ・ 実習委員
- ・ 国試対策支援ワーキンググループ

○ 社会的活動

- ・ 社会福祉士会による社会福祉士国家試験受験対策勉強会（2013 年 12 月 8 日、会場：高知県立大学）

教育研究活動報告書（橋本 力）

○総合評価及び今後の課題

研究活動

今年度は、科学研究費助成事業（若手研究B）に基づき、介護支援専門員を対象に、インフォーマル・サポート活用における支援プロセスについて調査を実施した。今後は、科学研究費助成事業に基づく研究を論文としてまとめていく予定である。

教育活動

学生にとって、講義内容が理解しやすく、また学生自らが普段の生活と結びつけて考えることができる講義となるよう工夫を行った。また15期生の学年担当として2回生の学生生活をサポートしてきた。次年度においては、今年度の課題点を精査し、学生にとってより良い講義となるよう改善していきたいと考えている。また学年担当業務においては、学生を様々な側面からサポートできるよう今後も努めていきたい。

社会的活動

今年度における社会的活動は、社会福祉士会による社会福祉士受験対策勉強会の準備および当日対応等のみであった。次年度においては、自身の専門および研究成果等を地域へと還元できるよう、自己研鑽に努めていきたいと考えている。

2013 年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

委員会名	構成メンバー			
教務委員会	杉原 俊二	長澤 紀美子	西内 章	三好 弥生
	加藤 由衣	石川 由美	二本柳 覚	
入試委員会	前山 智 <small>(全学入試委員 学部入試実施委員)</small>	鈴木 孝典 <small>(入試実施委員長)</small>	福間 隆康 <small>(入試実施委員/センター試験部会委員)</small>	鳩間 亜紀子 <small>(入試実施委員)</small>
	稲垣 佳代	二本柳 覚		
学生委員会	三好 弥生	西内 章	黒田 しづえ	福間 隆康
	鳩間 亜紀子	橋本 力	丸岡 利則	加藤 由衣
実習委員会*	丸岡 利則	西梅 幸治 <small>(社会福祉士コース 主担当)</small>	黒田 しづえ <small>(介護福祉士コース 主担当)</small>	鈴木 孝典 <small>(精神保健福祉士 コース主担当)</small>
就職委員会	三好 弥生	西内 章	鈴木 孝典	田中 眞希
広報委員会	遠山 真世	黒田 しづえ	西梅 幸治	橋本 力
	田中 眞希			
健康長寿センター	山村 靖彦	福間 隆康	二本柳 覚	橋本 力
高知医療センター・ 県立大学包括的連携協議会	前山 智	山村 靖彦	鈴木 裕介	
	看護・社会福祉連携部会委員			
総務・予算委員会	宮上 多加子	長澤 紀美子	山村 靖彦	田中 眞希
	鈴木 裕介			
情報処理委員会	鈴木 孝典	鈴木 裕介	二本柳 覚	
国試対策WG	西梅 幸治	後藤 由美子	遠山 真世	加藤 由衣
	鈴木 裕介	橋本 力	稲垣 佳代	二本柳 覚

■ : 全学委員

一重下線 : 学部委員長

※ 実習委員会委員は上記委員長＋各コース主担当に加え、授業担当者全員

教務委員会

杉原 俊二

（１）教務委員会の開催

学部教務委員会を、平成 25 年 4 月から平成 26 年 3 月までに、合計 21 回開催した。

（２）カリキュラムの改正

昨年度の改正案を大幅に訂正して、カリキュラムの改正を行った。また、来年度より実施される認証評価や 3 つのポリシーについての検討会（認証評価・3 P ワーキンググループ）を学部長の下に編成して、3 回開催した。学長・副学長などからの意見を取り入れて、修正を繰り返し、カリキュラムと 3 P について理事会で了承された。

（３）授業の調整

社会福祉士・介護福祉士のカリキュラムと、精神保健福祉士養成課程の新カリキュラム（1・2 回生）と、2 つのカリキュラムが並行していた。また、「相談援助実習」が一昨年度から 10 月にもおこなわれるようになり、12 月の集中講義期間に補講期間を設けた。精神保健福祉コースの先生方をはじめ教員・学生のご協力もあり、無事修了できた。

（４）卒業研究論文に関する発表会の開催

4 回生履修科目の「福祉研究演習Ⅲ」における卒業研究論文作成のため、『卒業研究論文執筆のてびき』を作成した。また、例年通り 3 回の発表会を開催した。卒論構想発表会は学生が増えたため大講義室でおこなった。そのため、金曜日（5 月 18 日・25 日）に実施した。卒論中間発表会は 10 月 31 日、卒業研究論文発表会（最終発表会）は 2 月 15 日実施した。発表形式は昨年度と同様に、構想発表会は口頭発表（スライドなし）、中間発表会はポスター発表、最終発表会は口頭発表（スライド使用）とした。

（５）次年度のゼミ配属についての調整

11 月に『平成 25 年度福祉研究演習Ⅰ・Ⅱ選択資料』を作成し、2 回生へ配布と説明をしたうえで、1 月にゼミ希望をまとめた。退職する教員もあり、来年度のゼミ担当教員が 13 名となり、1 ゼミあたりの上限を 7 名として調整した。第一希望での選考をおこない、後は空いているゼミへ再度応募をする形になった。また、退職する教員の担当していた学生（4 回生 7 名）を山村先生にお願いした。

（６）今後の課題

今後、3・4 回生の福祉研究演習の運営方法や研究の指導について、70 名定員体制に即したものにすることが必要である。来年度は認証評価もあり、丁寧な作業が必要となるであろう。

入 試 委 員 会

鈴木 孝典

○平成 25 年度委員会の体制

平成 25 年度の社会福祉学部の入試実施体制については、全学入試委員を前山智学部長、全学入試実施委員を鈴木孝典（委員長）・鳩間亜紀子・福間隆康、学部入試委員を稲垣佳代・二本柳覚、センター試験部会委員を福間が担当した。

○平成 26 年度入試の概況

1. 結果

区分	募集人員(人) A	男女別	志願者数(人)B		受験者数(人)C		合格者数(人)D		入学手続者数(人)		志願倍率(%)	合格倍率(%)
			全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	全体	(県内)	B/A	C/D
推薦 (11/16)	県内	男	1	1	1	1	0	0	0	0	-	-
		女	26	26	26	26	20	20	20	20	-	1.3
		計	27	27	27	27	20	20	20	20	1.4	1.4
	全国	男	4	0	4	0	1	0	1	0	-	4.0
		女	31	0	31	0	9	0	9	0	-	3.4
	計	35	0	35	0	10	0	10	0	3.5	3.5	
一般	前期 (2/25-26)	男	43	15	43	15	11	5	10	5	-	3.9
		女	115	27	100	27	29	6	25	6	-	3.4
		計	158	42	143	42	40	11	35	11	4.5	3.6
	後期 (3/12)	男	36	8	21	4	1	0	1	0	-	21.0
		女	90	28	49	20	6	2	5	2	-	8.2
	計	126	36	70	24	7	2	6	2	25.2	10.0	
計	40	男	79	23	64	19	12	5	11	5	-	5.3
		女	205	55	149	47	35	8	30	8	-	4.3
		計	284	78	213	66	47	13	41	13	7.1	4.5
社会人入試 (11/17)	若干人	男	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-
		女	5	5	5	5	1	1	1	1	-	5.0
		計	5	5	5	5	1	1	1	1	-	5.0
私費外国人留学生 (2/26)	若干人	男	2	/	2	/	1	/	1	/	-	2
		女	1	/	0	/	0	/	0	/	-	-
		計	3	/	2	/	1	/	1	/	-	2
合計	70	男	87	24	71	20	14	5	13	5	1.2	5.1
		女	263	81	206	73	64	28	59	28	3.8	3.2
		計	350	105	277	93	78	33	72	33	5.1	3.6

前期試験の課題図書：池上彰(2013)「学び続ける力」筑摩書房

入学手続者の県内率：45.8%

委員会活動年度報告書（入試委員会）

○平成 26 年度入試の特徴

1. 前年度（平成 25 年度入試）と比し、志願倍率、合格倍率ともに減少した。他方、
手続者の県内率は増加し、一昨年水準に達した。なお、志願倍率・合格倍率につ
いては、一昨年度の入試（平成 24 年度入試）から減少傾向にある。（下表）。

	平成 26 年度	平成 25 年度	平成 24 年度
志願倍率 (%)	5.1	5.9	6.3
合格倍率 (%)	3.6	3.9	4.0
手続者の県内率 (%)	45.8	41.1	45.8

2. 前年度まで続いていた、推薦入試の全国枠への高知県内からの出願はなかった。
（推薦入試の全国枠は、平成 23 年度から実施を始めた）。
3. 今年度より社会人入試が開始された。入学者選抜は、英文資料の読解を含む小論文
（100 点）と面接（100 点）により行った。出願者 5 名すべてが受験し、うち 1 名を
合格とした。
4. 私費外国人留学生については、全学国際委員会の広報活動が功を奏し、10 年ぶりに
出願者があった。出願者は 3 名で、全員が中国からの留学生であった。出願者のうち、
2 名が受験し、うち 1 名を合格とした。

○課題

1. 本学社会福祉学部を志願する受験者が減少傾向にあることから、広報委員会などと
協力し、受験生の目指す。
2. 新たに始まった社会人入試の実施体制（試験問題の作成及びチェック体制、当日の
運営体制など）について、今年度の反省を踏まえて改善を図る。
3. 私費外国人留学生入試の実施体制（出願資格のチェック体制、当日の運営体制など）
と選抜方法（面接試験の採点評価基準、語学力を試験で確認するための選抜方法など）
について、本学他学部及び他大学の実施状況に係る情報収集や国際委員からの助言、
指導などを踏まえて検討する。
4. 障害を有する受験者への受験上の配慮について、学部内での検討を開始し、受験の
受入体制について整備を図る。

以上

学 生 委 員 会

三 好 弥 生

○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の上昇、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

○ 活 動 内 容

1. 相談活動

学生のメンタルヘルス、悩み事などの相談は、基本的には学年担当教員およびゼミ担当教員が対応し、学生委員会において情報を共有した。対応が困難な場合は、健康管理センターや学生課と連携し、解決に取り組んだ。

健康管理センターが実施する、精神科医師、心理カウンセラー、婦人科医師、保健師、等による相談窓口について、相談の利用形態、利用時間、申し込み方法等の説明を行い、掲示板などを利用して学生に周知を行った。

2. 経済的援助

学生からの個別相談に応じ、適宜、授業料の免除や各種奨学金の申請などについて、学生課と連携し、情報提供及び手続を行った。

3. 事故・事件への対応

近年、学生数の増加に伴い事故や事件が増加しており、掲示板等による注意喚起、交通安全講習会やデートDV防止講座の開催など全学的に対応が行われた。

池キャンパスにおける事故件数

・平成21年度	交通事故4件、交通事故以外の受傷2件	→	計7件
・平成23年度	交通事故18件、交通事故以外の受傷5件	→	計23件
・平成25年度	交通事故24件、交通事故以外の受傷9件	→	計33件

4. 感染症への対応

配属実習にあたって、四種（麻疹・風疹・水痘・おたふくかぜ）抗体検査、B型肝炎抗体検査、ツベルクリン反応検査を実施、情報提供を行った。

5. 学生ニーズ調査結果への対応

平成24年に実施した学生ニーズ調査の分析結果について、学生委員会で協議し対応を検討した。

○ 今 後 の 課 題

学生の健康や学費等経済面に関する相談、交通事故や犯罪被害等いずれも毎年増加傾向にある。そのため、学部学生委員会のみならず、学生課及び健康管理センターの人員強化など、全学的課題として対応を講じる必要があると考える。

デートDV防止講座

デートDVから身を守るために

束縛は愛じゃない。 デートDVという言葉を知っていますか。

デートDVとは、恋人による身体面や心理面などを含む様々な暴力のことです。被害者にも加害者にもならないために、誰にでも起こりうるデートDVについて、一緒に考えましょう。

◆日時：平成26年2月7日（金）16：10～17：40

◆会場：高知県立大学 池キャンパス 大講義室

◆対象：高知県立大学学生、教職員

◆参加費：無料（申込不要）

◆講師：ビッグママ

◆講師プロフィール

NHK「おはよう日本」や「クローズアップ現代」など様々なメディアにおいて、デートDV被害経験者の家族として出演。全国的に大きな反響を呼ぶ。

若者たちの間に増えつつけるデートDVの実態や、その時親は何ができるのかを体験をもとに語り、全国各地での講演・取材協力を通してデートDV防止教育の必要性を訴え続けている。

実 習 委 員 会

丸 岡 利 則

○ 活 動 方 針

本年度のコースごとの活動方針は、相談援助実習では、昨年度と同様に実習指導における少人数教育へのきめ細かな対応の継続が課題であった。また、精神保健福祉援助実習においては、新カリキュラムへの準備対策が継続された。さらに介護福祉実習においては、4年目の完成年度を迎え、より充実した配属実習を図ることが眼目であった。このような活動方針の焦点は、こうした新たな状況とこれまでの成果とそれぞれの課題を踏まえた実習に対する具体的な展開にあったと言えるだろう。

○ 活 動 内 容

本年度は、相談援助実習では、高知県立大学となった時期に入学した3年生と、さらに高知女子大学として入学した最後の入学生の4年生（介護・福祉コース）と、また精神保健福祉援助実習では、同じく4年生が実習に臨んだ。本年度の実習生の総数としては、過去最高の数値となった。相談援助実習で66名（昨年度56名）、精神保健福祉実習が27名（同26名）、介護実習Ⅰは18名（同20名）、介護実習Ⅱ－①が18名（同20名）、介護実習Ⅱ－②は、20名（同17名）が実習を行った。

相談援助実習66名の内訳は、社会福祉協議会23名、病院（精神科除く）11名、児童相談所6名、児童養護施設10名、児童自立支援施設2名、特別養護老人ホーム4名、軽費老人ホーム2名、知的障害者更生相談所等2名、障害者支援施設2名、療養介護事業所・医療型障害児入所施設1名、障害福祉サービス事業所4名、生活介護事業所1名、相談支援事業所等2名であった。

精神保健福祉援助実習の配属実習の27名の内訳は、精神科病院27名、精神保健福祉センター2名、障害福祉サービス事業所9名であった。

介護実習の内訳は、介護実習Ⅰでは、介護老人福祉施設12名、介護老人保健施設6名、障害者支援施設11名、重症心身障害児・者施設7名、通所介護事業所12名、通所リハビリテーション事業所6名、認知症対応型共同生活介護事業所13名、訪問介護事業所7名であった。介護実習Ⅱ－①では、介護老人福祉施設11名、介護老人保健施設2名、障害者支援施設2名、重症心身障害児・者施設3名であった。介護実習Ⅱ－②では、介護老人福祉施設11名、介護老人保健施設5名、障害者支援施設2名、重症心身障害児・者施設2名であった。

また、相談援助実習、精神保健福祉援助実習、介護実習の各実習先の実習指導者との連絡調整を図るため、それぞれ「実習連絡協議会」を開催した。まず、平成25年11月7日に介護福祉実習連絡協議会及び介護福祉実習報告会を実施した。12施設・事業所より19名の出席があり、実習受け入れ体制などに関する懇談と実習内容の発表を行った。

平成26年3月6日に、精神保健福祉援助実習先から、9名を招いて、精神保健福祉援助実習の概要と新カリキュラムの運用について説明し、その後、実習生を囲んで今年度の懇談、実習指

委員会活動年度報告書（実習委員会）

導者と実習担当教員との懇談を実施した。

平成 26 年 3 月 7 日には、相談援助実習先から、19 名を招いて実習連絡協議会を開催した。今年度も各施設・機関の実習に関する意見を十分に聴取し、次年度に反映させていくことになった。

また、相談援助実習・精神保健福祉援助実習・介護実習の 3 福祉実習を円滑に進めていくために、福祉実習支援室を担う各福祉実習担当助教と実習委員長との連絡会議を月一回実施し、福祉実習支援室の役割や機能の充実に努めた。さらには、実習支援室長が不在であるため、講師に新たに専任の役割を依頼し、会議の充実や 3 福祉実習の連絡や連携の強化を図った。

○成果と課題

<増加した実習学生への対応>

本年度は、相談援助実習においては、過去最高の学生が実習に臨んだ。このため、昨年以来の懸案事項である実習先の確保、また県外での実習学生が増えたことによる実習巡回の体制づくりが課題となった。すなわち、それは、事前学習のきめ細かな内実が最も大きな課題である。実習先からの評価に応えるためにも、事前学習の重要性を確認するとともに、改めて実習教育全般にわたり、そのあり方の見直しが必要であり、指導体制や指導内容についての検討が求められる。

<ふれあい実習のあり方>

これまで行ってきたふれあい実習のあり方について、配属実習に対する動機と問題意識を養うものとするために、この実習の内容等について、次年度入学生から廃止の方向が決まった。

<福祉実習支援室の体制づくり>

福祉実習を円滑に進めていくためには、福祉実習支援室の役割が重要であり、今年度も各福祉実習担当助教の努力により、円滑に各実習は進められた。実習支援の根幹をなす福祉実習支援室の機能が十分発揮できるために、助教の方々の負担を軽減していくための仕組みづくりの検討が今後の課題である。

就 職 委 員 会

三 好 弥 生

○ 社会福祉学部の取り組み

1) 就職ガイダンス等

<4回生>

- ① オリエンテーション（2013年4月）
- ② 履歴書の書き方（2013年5月）
- ③ 面接の受け方（2013年5月）

<3回生>

- ① オリエンテーション（2013年4月）
- ② 家庭裁判所調査官就職説明会（2013年4月）
- ③ 面接の受け方（2013年5月）
- ④ 4回生による社会福祉学部就職セミナー（国試対策含）（2014年2月）
講師：大林祥子さん、野田敦子さん（13期生）

2) 個別相談等

ワクワクWork!!と連携しながら、学年担当教員、ゼミ担当教員らが中心となり、4回生の進路相談、履歴書添削、面接練習を行った。また3回生以下の学生に対しては、学部就職委員と学年担当教員が連携し、全学学生対象の就職ガイダンスへの周知および参加の呼びかけを行った。

3) 進路の状況（2014年4月30日現在）

就職希望者 70名（70名内定）

進学希望者 2名（県外大学院）

【就職内定先業種別内訳】

- ① 一般企業：6名
- ② 務員：6名（うち社会福祉2名）
- ③ 療機関：25名（うち精神科病院9名）
- ④ 会福祉協議会：8名
- ⑤ 社会福祉：25名

【卒後勤務地】高知県内：24名、高知県外：46名

○ 今後の課題

平成25年度の進路指導は、定員増となり初めて70名を超える学生が対象となり、進路希望は就職のみならず進学を希望する者もあり、就職希望地も広範囲に渡った。そのため、就職委員会においては支援方法から再検討する必要がある。ゼミ担当教員の協力も得て進めてきたが、当初は各々学生の就職活動状況の把握が難しく、次年度以降も検討課題となると考える。全学的にはキャリア支援部会との連携や学生数に応じたワクワクWork!!のスタッフ人員配置などが検討課題として考えられる。

広 報 委 員 会

遠 山 真 世

○本年度の取り組み

本年度の広報委員会（学部）は、全学広報専門委員会（大学案内・オープンキャンパス専門委員会）に遠山講師が参加、学部委員を黒田准教授、西梅講師、田中助教、橋本助教が担当した。その主要な取り組みは、次の通りである。

（１）「大学案内」の編集・製作

2015年度版「大学案内」の作成に伴い、社会福祉学部の紹介ページでは、次のとおり見直しを行った。

①「在学生の声」を追加、②学部キャッチフレーズの考案、③カリキュラム構造図の修正、④実習スケジュール表の修正、⑤「卒業生の声」の修正、⑥国家試験合格率・就職状況の修正、⑦キャンパスカレンダーの修正、⑧掲載写真の撮影

（２）オープンキャンパス：８月４日（日）

社会福祉学部では、学部全体説明会、教員／先輩との談話室、学部紹介DVD上映、体験授業（長澤教授、鳩間講師）、ゼミ室訪問、介護体験コーナー、手話体験コーナー、見学ツアーなどのプログラムを実施した。学部企画への参加者数やアンケートの集計結果は、添付資料のとおりである。

本年度のプログラムは全体的に好評であり、学部生も笑顔で元気よく参加者に接していた。とりわけ教員／先輩との談話室および体験授業への参加が多く、これらの会場には参加者が集中した。次年度は教員・学生の配置を増やしたり、教室や椅子の並べ方を工夫するなどして対応したい。

（３）高校生のための公開講座：８月３日（土）

本講座は、高校生を対象に社会福祉の理解を深めてもらうと同時に、四国で唯一の公立大学で3福祉士資格に対応する本学部を認識してもらう機会とし、毎年開催している。本年度は後藤准教授・福間講師・二本柳助教が講座を担当した。参加者数やアンケートの集計結果は、添付資料のとおりである。

本年度の講座も各資格に対応し、適宜、演習を交えた内容で構成され、概ね好評であった。ただ、参加者が年々減少しており、原因・背景の分析および、周知・配布方法の工夫を行う必要があると思われる。また、高校1～2年生の参加者もいるため、より親しみやすくわかりやすい講座を開催できるようにしたい。

（４）在学生による出身高校訪問

夏季休業期間中に、県外出身の学生が出身高校を訪問し、大学・学部PRを行う取り組みを継続して実施している。本年度については、1回生19名が出身高校を訪問して、男女共学化、全国推薦、大学生生活などについてPRを行った。

（５）学部パンフレットの作成

本年度は、昨年度作成した学部パンフレットを改訂した。年次で変更が必要な箇所につ

委員会活動年度報告書（広報委員会）

いて修正し、1,200部を作成した。

（6）学部ホームページ

- ①イベント記事の掲載：全学・学部のイベントごとに写真付きの記事を作成し、学部HPに掲載した（27件）。
- ②掲載内容の改訂：各委員会の教員に依頼し、掲載内容について確認・修正を行うとともに、入試や国家試験の結果等のデータを最新のものにした。
- ③高校生向けページの作成：本学部に関心をもつ高校生に向けて、本学部での学びや生活の様子を発信するためのページを新たに作成した。

（7）キャンパス訪問・模擬授業への対応

本年度も高校生や進路指導教員による学部訪問が実施され、教員による学部紹介、学部紹介DVDの上映、訪問校卒業生による学部紹介、介護コースの学生との談話、介護体験などを行った。また、本学部の教員が高校を訪問し、模擬授業を行う機会もあった。本年度に対応した高校は次のとおりである。

- ・高知県立春野高等学校（23名、6月21日）
- ・静岡県立袋井高等学校（教員1名、8月22日）
- ・鳥取県立鳥取中央育英高等学校（教員2名、10月10日）
- ・香川県立善通寺第一高等学校（8名、9月25日）
- ・高知県立高知追手前高等学校（8名、11月5日）
- ・高知県立高知丸の内高等学校（黒田准教授による模擬授業、12月2日）
- ・岡山県立総社南高等学校（教員1名、2月6日）

（8）全学広報誌等への記事提供

- ①本年度は新たに全学広報誌2誌が発行され、本学部の卒業生や授業、課外活動にかんする記事が掲載された。
 - ・第1号「就職図鑑」：卒業生9名およびゼミ教員等のコメント
 - ・第2号「県民大学プロジェクト」：かんきもん、太鼓部、Pシスターズ（田中教授）、グローバルクラブJaparean、地域福祉活動IE（西内准教授）
- ②高知県高齢者福祉課発行「福祉・介護の仕事」に対し本学部の卒業生2名を紹介し、インタビュー記事や写真が掲載された。

（9）その他

その他、①全学のNextWeekへの記事の提供、②Benesseマナビジョンの学部紹介記事の作成、③進学ガイダンス用FAQの修正などを行った。

○今後の課題

学部定員増と男女共学化に対応した学部広報活動が今後も継続的に必要である。来年度も引き続き、3福祉士対応、少人数教育、国試合格率・就職率の高さなどのメリットを活かし、高校生、保護者、進路指導担当を対象に広報活動を展開していきたい。特に学部パンフレットの作成、HPの充実・活用について検討したい。また公開講座、オープンキャンパスについても、魅力的な内容や効率的な運営となるよう努めたい。

Open Campus 2013

社会福祉学部



2013年8月4日(日)
受付:
共用棟1階ロビー

	共用棟(D棟)	社会福祉学部棟(E棟)			看護福祉棟(F棟)		
	2階 大講義室	E102 講義室2	E103 講義室1	演習室 各階	F110 小講義室	1階	F104 家政実習室
9時半			教員/先輩との談話室 [9:30-10:15]	ゼミ室訪問 [9:30-10:15]			教員との談話 コーナーあり!
11時	学部全体 説明会 [10:25-11:05]	例年大好評! 体験授業① [11:15-12:00]	資格や大学生活のことなど 何でも聞いてみよう! 教員/先輩との談話室 [11:15-12:00]	ゼミ室訪問 [11:15-12:00]	学生による学部 紹介ビデオやス ライドの上映 (随時)	介護体験を通して 実際の介護に 触れてみよう! 介護体験 コーナー [11:15-12:00]	休憩室 [9:30-12:00]
12時	食堂(共用棟地下1階)で学生アトラクション[12:00-13:00] (よさこいチームグローバルクラブJapareanなど)						
13時							
14時	学部受付は (9時から随時) 共用棟1階ロビー	学部全体 説明会 [13:10-13:50]	教員/先輩との談話室 [13:00-15:45] ご家族の方も どうぞ!	ゼミ室訪問 [13:00-15:45] ご家族の方も どうぞ!	学生による学部 紹介ビデオやス ライドの上映 (随時)	介護体験 コーナー [14:00-15:45]	休憩室 [13:00-15:45] ご家族の方の 休憩に! フリードリンク コーナーあります
15時			フリードリンク コーナーあります	実習や研究の様子など いろいろ聞いてみよう!	例年大好評! 体験授業② [14:05-14:50]	ご家族の方も どうぞ!	
16時							

その他、学部紹介のパネル展示などを開催します!



演習室 E107では
手話サークルによる
手話体験コーナー
もあります!

高齢者の支援について

体験授業①
社会福祉学部棟 1階 E102
11:15~12:00
鳩間 亜紀子 先生
「少子高齢化と高齢者を支援する
ということ」

国際福祉について

体験授業②
看護福祉棟 1階 F110
14:05~14:50
長澤 紀美子 先生
「世界に目を向けよう
—開発途上国の子ども達と
ソーシャルワーク支援」

体験授業を2つ開催!

社会福祉学部見学ツアーを開催!!

先生の研究室も
見学できるよ!

見学受付: 社会福祉学部棟 1階 E103「教員/先輩との談話室」コーナー



高校生のための 公開講座 2013

2013年8月3日(土)

10:00 ~ 16:00

社会福祉士

生活に困難をかかえる人々の相談に応じ、解決に向けて支援を行う専門職

精神保健福祉士

こころの病を負った人々に対し、知識と技術を用いて相談支援を行う専門職

介護福祉士

日常生活に支障のある人々に対して、社会生活が営めるよう支援を行う専門職

就職率

100%

(2012年度卒業生)

高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する、四国内で唯一の公立大学です。

さらに、西日本でただ一つ、3福祉士資格に対応した公立大学となりました。4年間で、2種類の国家資格を取得することが可能です。

未来のプロフェッショナルを育てる高知県立大学の雰囲気、この夏、体験してみませんか？



高知県立大学は
2011年度より男女共学となりました

第14回 高校生のための公開講座
2013年度の LINE-UP !

8月3日(土) 10:00~16:00 (終了後アンケート)	
10:00~	<p>【池キャンパスへのアクセス】バス：土佐電ドリームサービス 高知県立大学・医療センター線 高知駅前 はりまや橋 高知医療センター 高知県立大学 9:10 → 9:17 → 9:38 → 9:40 大人道 390円 330円</p>
	<p>【開講式】高知県立大学社会福祉学部の紹介 (前山 智 学部長)</p>
1時限 10:20~11:50	<p>【講座①】社会福祉士に関わる授業 「価値観と他者への理解—多様な価値観—」 (福間 隆康 講師)</p>
昼休み	11:50~12:50
2時限 12:50~14:20	<p>【講座②】精神保健福祉士に関わる授業 「精神保健福祉ってなんだろう?—遠くて、でも近いもの—」 (二本柳 覚 助教)</p>
3時限 14:30~16:00	<p>【講座③】介護福祉士に関わる授業 「認知症の人達を支えるために」 (後藤 由美子 准教授)</p>
	<p>【池キャンパスからのアクセス】バス：土佐電ドリームサービス 高知県立大学・医療センター線 高知県立大学 高知医療センター はりまや橋 高知駅前 16:46 → 16:50 → 17:13 → 17:18 大人道 330円 390円</p>

※スケジュールが若干変更になる可能性があります。あらかじめご承知おきください。

【会場】社会福祉学部棟(E棟) E103教室(予定)

- 8月3日(土)は学内の売店・食堂が休業しております。
各自で昼食をご準備ください。
- 3時限目終了時の簡単なアンケートにご協力ください。
- 翌8月4日(日)は高知県立大学オープンキャンパスが開催されます(事前申込不要)。こちらにもぜひお越しください。



健康長寿センター

山村靖彦

○活動内容

1. 健康長寿センター運営委員会

全学の運営委員会として、平成25年4月から平成26年3月までに、合計11回の会議を開催した。

2. 健康長寿センター運営委員会委員

- 1) センター長：池田光徳教授（看護学部）
- 2) 野島佐由美副学長（健康長寿に関わる事業担当）
- 3) 総務企画課健康長寿センター担当職員3名
- 4) 文化学部1名、看護学部教員2名、健康栄養学部2名、社会福祉学部4名
合計14名

3. 平成25年度活動実績

詳細やパンフレット等は、後に掲載する。

○評価

1. 健康長寿体験型セミナー（社会福祉学部担当）については、本山町、本山町社会福祉協議会、嶺北の地域リハを考える会との共催によって開催した。当日は39名の参加があり、ほぼ不備なく運営（企画・広報・当日の運営等）を行うことができた。

2. リカレント教育講座については、受講者延べ人数212名で、今日的関心の高いテーマで4回開講し、スムーズな企画・運営を実施することができた。今後も、より関心の高いテーマを選定し、受講者の要望に合った実施を行っていきたい。

○課題

健康長寿体験型セミナーについては、講演のテーマ等について開催地のニーズに合った実施が求められることから、事前に先方と詳細な協議を行う必要がある。

リカレント教育講座については、本年度は全学および学部ホームページへの積極的なリンク等による情報提供を行ったが、今後はさらなる充実を目指し、広報の強化に努めていきたい。

平成25年度 健康長寿センター事業

センター 4事業	No.	実施年月日	事業名	参加者数
(1) 介護福祉の啓発事業				
	1	11/30	地域医療(在宅での看取りと多職種連携)フォーラム	250
	2	12/15	健康長寿体験型セミナー(社会福祉学部企画) 「みんなで考えよう!“元気生き生き”まちづくり」	39
	3	12/21	看護学部企画の健康長寿センター体験型セミナー(佐川町)	69
	4	11/23	高知県立大学健康長寿センター体験型セミナー(健康栄養学部企画)「認知症」 についてどのくらいご存知ですか?	94
	5	12/14	健康栄養学部公開講座	140
(2) 高知医療センターとの協働による健康長寿社会の実現に向けての専門職者の力量アップ事業				
	1	7/6	SP参加型医療コミュニケーション研修	30
	2	7/18	包括的連携事業「看護各領域の看護の質向上事業」	18
	3	12/17	包括的連携事業「看護各領域の看護の質向上事業」(2回目)	14
	4	—	慢性疾患(CKD)食事療法手引き作成事業	—
	5	3/13	高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会健康栄養部会主催セミナー 事業	42
	6	—	慢性疾患(CKD)食事療法手引き作成(増刷)事業	—
	7	—	包括的連携事業「看護各領域の看護の質向上事業」(3回目)	10
(3) 地域連携事業				
	1	—	とさつ子健診プロジェクト	—
	2	—	土佐市連携事業「特定健康診査の受診率向上」	—
	3	11/4	赤ちゃん同窓会	163
(4) 専門職人材養成事業				
	1	6/22	高次脳機能障害ファシリテーター養成講座	131
	2	6/18・12/26 7/23・12/17	看護学部リカレント教育(地域看護学領域) 高知県新任保健師研修会	115
	3	6/22・6/23・9/7・ 9/12・9/13・12/14・ 12/15・2/20・2/21	平成25年度高知県介護職員喀痰吸引等研修	—
	4	10/5	リカレント教育講座—持ち上げない介護—	44
	5	10/12	リカレント教育講座—社会保障制度改革推進法と社会保障制度改革のゆくえ—	67
	6	11/2	リカレント教育講座—地域福祉を考える ソーシャル・キャピタルの視点から—	56
	7	12/7	リカレント教育講座—「障害」とは何か? 社会に潜む差別に気づく—	45
	8	8/18	看護学部 夏の公開講座 「対応困難な家族へのケア」	32
	9	9/14	精神看護リカレント教育(高知県西部地区精神科看護研修会) テーマ「周辺症状を伴う対応困難な認知症患者の理解と看護ケア」	51
	10	1/25	看護学部リカレント教育・地域連携事業 高知県保健師交流大会～こじゅんとエンパワーメント～	192
	11	1/13	健康長寿センター事業 冬の公開講座	27

平成25年度 健康長寿センター事業

センター 4事業	No.	実施年月日	事業名	参加者数
-------------	-----	-------	-----	------

※実施事業のうち、網掛けで示したものが社会福祉学部が主体的に関わったものである。

高知県立大学 健康長寿センター 体験型セミナー

聞いて 見て 体験して 考えよう!

もとやまスタイル

元気づくりのススメ

入場無料

是非、ご参加ください!!

開催日時

平成 25 年 **12 月 15 日 (日)**

13時30分~15時20分

(午後 1 時開場)

場所

本山町プラチナセンター

ふれあいホール

(本山町本山569-1)

内容

■講演 「住民主体の『元気生き生き』まちづくり」

—孤立化防止・居場所づくり・地域づくり—

講師：田中きよむ 教授

(高知県立大学 社会福祉学部)

■認知症予防体操

講師：嶺北の地域リハを考える会

※上記終了後に、展示・体験コーナーを開催いたします。

体験コーナーでは、血管年齢・骨健康度の測定も行います。

お気軽にお立ち寄りください。

お問い合わせ

本山町 地域包括支援センター

☎ 0887-70-1060

高知県立大学 総務企画課

☎ 088-847-8575

事前申し込み
は不要です!

◆主催：高知県立大学 健康長寿センター

◆共催：本山町、本山町社会福祉協議会、嶺北の地域リハを考える会

健康長寿センター事業

高知県立大学社会福祉学部

リカレント教育講座

知のフィールドへの招待
2013

開催日

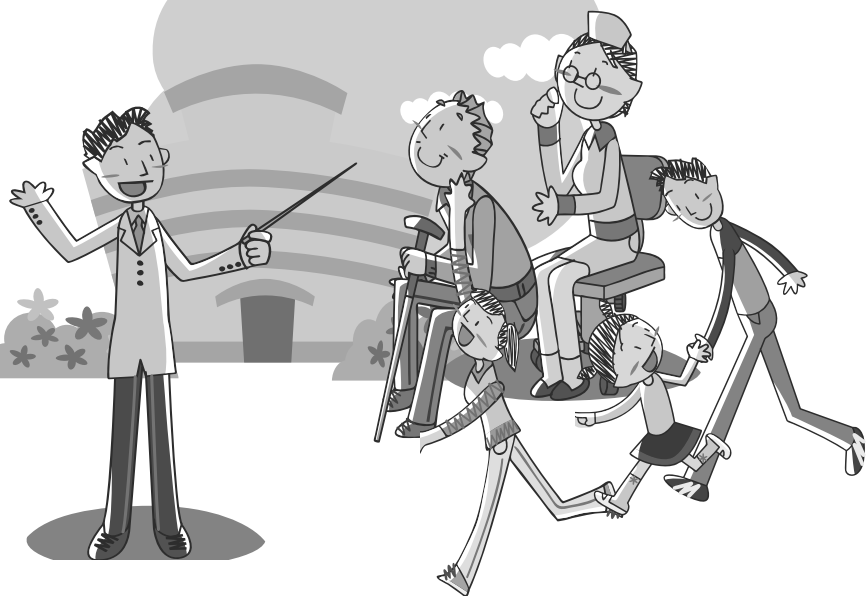
10月5日(土)

10月12日(土)

11月2日(土)

12月7日(土)

高知県立大学社会福祉学部は、社会福祉領域のプロフェッショナルを養成する四国内唯一の公立大学であり、西日本の公立大学ではただひとつ、三福祉士資格に対応しています。



全講座
無料

ごあいさつ

高知県立大学社会福祉学部

学部長 前山 智

日頃は、本学の社会福祉教育にご理解・ご協力を賜りありがとうございます。

本学は平成 23 年度より高知県立大学に名称を変更し、男女共学化となり 3 年目に入りました。特に本学部は、平成 22 年度より定員を 30 名から 70 名に増員し、3 つの福祉士国家資格(社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士)に対応したカリキュラムでスタートしています。今後もこれまでの face-to-face のきめ細やかな教育を継続し、専門職養成の量の確保及び質の向上を目標に取り組んでいきたいと考えております。

今年度のリカレント教育講座につきましては、社会福祉学部の新任教員や例年好評をいただいている教員が担当し、地域の保健・医療・福祉に携わる専門職の方々や地域にお住まいの皆さまへ向け、社会福祉に関する 4 つのテーマで講演や演習形式の講座をご用意しています。

お気軽にご参加いただき、日頃の実践に多少なりともお役に立てれば幸いです。



講師プロフィール

田中 眞希(助教)

持ち上げない介護

愛媛県出身。身体障害者療護施設アイルにて、介護職員として 6 年間勤務した後、聖カタリナ大学助手として赴任。赴任後、高知女子大学人間生活学研究科に在籍し、修士(社会福祉学)を取得。2011 年に高知県立大学に助教として赴任。

障害児・者の生活支援を行っていた経験を生かし、学生とともに介護福祉士の専門性について考えている。

田中 きよむ(教授)

社会保障制度改革推進法と
社会保障制度改革のゆくえ

滋賀県生まれ。滋賀大学経済学部卒業、同大学院修士課程修了、京都大学大学院博士後期課程単位取得退学後、高知大学教員を経て、2006 年度から高知女子大学(現 高知県立大学)教授。担当教科は、社会保障、福祉行財と福祉計画、低所得者に対する支援と生活保護制度など。主な著書は、『少子高齢社会の社会保障論』(単著、中央法規出版、2010 年)、『限界集落の生活と地域づくり』(共著、晃洋書房、2013 年)など。

山村 靖彦(准教授)

地域福祉を考える
—ソーシャル・キャピタル
の視点から—

宮崎県高千穂町生まれ。社会福祉士として病院、施設、社会福祉協議会に勤務。大分大学大学院福祉社会科学研究科、高知県立大学健康生活科学研究科修了(社会福祉学博士)。教員としては、保育者養成にも携わってきた。

専門は、地域福祉。過疎地域における生活問題や、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)に関する研究を行っている。

本年度より現職。

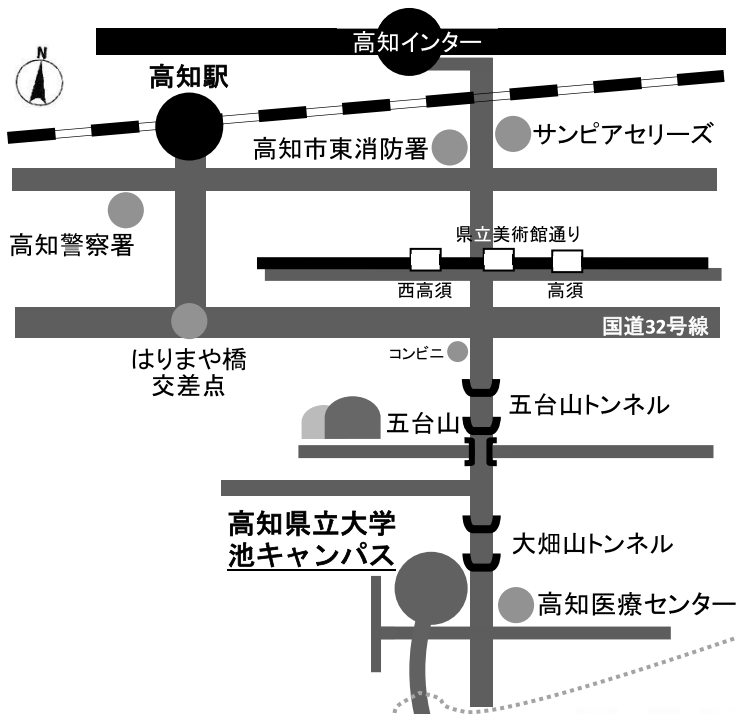
遠山 真世(講師)

「障害」とは何か？
—社会に潜む差別に気
づく—

東京都立大学大学院社会科学研究科社会福祉学専攻博士課程修了(博士・社会福祉学)。立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科助手、立教大学コミュニティ福祉学部コミュニティ政策学科助教を経て、本年度より現職。専門は障害者福祉。中でも、障害者の雇用・就労の問題について政策や実態を分析し、どのようなあり方が「平等」なのかを検討している。またこれまでのゼミ活動では、障害のある方々と学生たちが楽しく交流する機会を設け、より深い意味で「理解する」とはどういうことか、一緒に考える活動を行ってきた。

高知県立大学社会福祉学部
リカレント教育講座
 -知のフィールドへの招待-

<p>10月5日(土) 13:30~15:30 看護福祉棟 1階 F110/F109</p>	<p>介護現場で働いていると、腰痛に悩まされていると思います。私も介護現場にいたときは、腰痛に悩まされていました。</p> <p>介護現場で移乗の際に高齢者を抱える方法は一般的ですが、その方法ではかなり腰への負担が大きいことが分かっています。腰への負担が少ない移乗や移動の方法、「持ち上げない介護」について基本的な知識を理解し、一部体験していただきたいと思います。</p> <p>この機会を通して、移乗や移動の方法を見直す機会となり、今後の支援への一助となればと考えています。</p>
<p>持ち上げない介護</p> <p>助教: 田中 眞希 (定員: 30名)</p>	<p>社会保障・税一体改革は、前政権の下での三党合意(2012年6月)を経て、その関連8法が成立しました(同8月)。「高齢者3経費」(年金・医療・介護)、「社会保障4経費」(プラス少子化対策)に主な焦点を合わせ、それらの分野を中心に給付を抑える一方で、制度改革や高齢化に伴う経費などを消費税の増税(2014年4月8%、2015年10月10%へと段階的に引上げ)で充当しようとするものです。</p> <p>しかし、年金制度や高齢者医療制度など、その具体的な制度改革の内容が、社会保障制度改革推進法において、社会保障制度改革国民会議という内閣の審議会に委ねられた部分もあります。そこで議論されている内容も含め、年金、医療、介護、保育、生活保護などの今後の社会保障制度改革の方向を探ります。</p>
<p>10月12日(土) 13:30~15:30 共用棟 2階 大講義室</p>	<p>地域福祉といっても、その捉え方は実にさまざまで一様ではありません。本講座では、まず「地域福祉とは何か」について検討し、その上で、現代社会における地域福祉の役割や課題、方向性について考えます。</p> <p>地域福祉に関する法・制度的理解に加え、最近よく耳にする「つながり」や「絆」、「(社会的)孤独」などに関しての社会的背景や意味、課題性について、ソーシャル・キャピタル(社会関係資本)という概念を用いながら考えたいと思います。</p>
<p>社会保障制度改革推進法と社会保障制度改革のゆくえ</p> <p>教授: 田中 きよむ (定員: 100名)</p>	<p>近年、スポーツや芸術などで活躍する障害者や、地域へ出て暮らす障害者も増え、障害のある人に対する理解も広がってきました。また、学問においても「障害」をめぐる新しい考え方が示され、普及しつつあります。その一方で、生活や人生の幅が大きく限られている障害者も多く、また、そうした問題を知らない人や関心のない人も数多くいます。</p> <p>本講座では、「障害」とは何か? 「差別」とはどのようなことか? をみなさんと一緒に考えたいと思います。それを通して、社会にある問題に気づき、改善や解決につなげるヒントを得ていただければ幸いです。</p>
<p>11月2日(土) 13:30~15:30 共用棟 2階 大講義室</p>	<p>「障害」とは何か? —社会に潜む差別に気づく—</p> <p>講師: 遠山 真世 (定員: 80名)</p>
<p>地域福祉を考える —ソーシャル・キャピタルの視点から—</p> <p>准教授: 山村 靖彦 (定員: 100名)</p>	<p>「障害」とは何か? —社会に潜む差別に気づく—</p> <p>講師: 遠山 真世 (定員: 80名)</p>



- J R 高知 駅から／車で約 20 分
- はりまや橋から／バスで約 20 分
- 高知インターから／車で約 20 分



高知県立大学社会福祉学部
Faculty of Social Welfare, University of Kochi
池キャンパス

〒781-8515 高知県高知市池 2751-1
本講座に関するお問い合わせ先
Mail: recurrent-sw@cc.u-kochi.ac.jp
TEL : 088-847-8610(実習支援室内)
FAX : 088-847-8673(実習支援室内)
<http://www.u-kochi.ac.jp/~fukushi/>

平成 25 年度リカレント教育講座申込書

2013 年 月 日

(フリガナ)											
氏 名											
連絡先 <input type="checkbox"/> 勤務先 <input type="checkbox"/> ご自宅	〒										
	tel						fax				
	e-mail										
勤務先の名称											
職 種											
↓受講ご希望の講座に ○ をつけてください (複数講演の選択 (併修) 可能)											
演 題		持ち上げない介護								田中 眞希	10月5日 (土)
		社会保障制度改革推進法と社会保証制度改革のゆくえ								田中 きよむ	10月12日 (土)
		地域福祉を考える-ソーシャル・キャピタルの視点から-								山村 靖彦	11月2日 (土)
		「障害」とは何か? —社会に潜む差別に気づく—								遠山 真世	12月7日 (土)
本学部卒業生の場合記入		高知県立大学 (高知女子大学) 社会福祉学部 第 期生									
特記 事項											
これまでの 受講経験	有 ・ 無 (今回が初めて)										

- 申込者がいない場合、当該講座は開講いたしません。
- この申込書によって知り得た個人情報「リカレント教育講座」実施の目的以外には利用いたしません。

お申込締切日：各講座実施日の1週間前まで

申込書が足りない場合はコピーしていただくか、高知県立大学社会福祉学部のホームページよりダウンロードしてください。

リカレント教育講座受講申込方法

E-mail 若しくは郵送かF A Xでお申込ください

1. E-mail の場合は、以下をメール本文に記載の上、下記アドレスまで送信ください。

①お名前 ②住所・電話番号 ③勤務先・職種 ⑤過去の受講の有無

⑥参加希望回（複数回答可・日時は以下参照）⑦卒業生の場合は何期生か

（第1回：10月5日、第2回：10月12日、第3回：11月2日、第4回：12月7日）

2. 郵送・ファックスの場合は、裏面の申込書にご記載の上、下記までお送りください。

※ 郵送・ファックス黒のボールペンなどを用い、楷書ではっきりとお書きください

□ お申込先 □

[E-mail]

recurrent-sw@cc.u-kochi.ac.jp

[郵 送]

〒781-8515 高知市池 2751-1

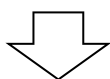
高知県立大学社会福祉学部 リカレント教育講座 係

[F A X]

088-847-8673

□ お申込締切日 □

各講座実施日の1週間前まで



当日、講座の開催会場へ直接お越しください

高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

山 村 靖 彦

○看護・社会福祉連携部会について

1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 平成 25 年度は、昨年に引き続き共同研修会（上記事業 3）にあたる）を毎月 1 回、定期開催した（詳細は、次ページ参照）。また、本年度は看護局との共同研修会を開催した。なお、本研修会には医療ソーシャルワークに関心をもつ学生も参加した。
2. ソーシャルワーカーと教員とによる共同研究（上記事業 4）にあたる）として、昨年度から取り組んできた研究テーマ「ソーシャルワーカーに対する院内職員の認識（第一報）—急性期病院における転退院」の成果を、「第 15 回医療マネジメント学会」（於：岩手県盛岡市、平成 25 年 6 月 14 日～15 日）および医療センター内学会において、報告した。
3. その他の連携活動（上記事業 6）にあたる）として、学生 3 名の卒業研究調査に対して、医療センターのソーシャルワーカー 3 名が協力した。

○社会福祉連携部会における取り組みの課題

今後の課題としては、定例研修会のあり方の検討や内容の見直し、および新たな共同研究の実施に向けての検討等があげられる。

以 上

教員によるコンサルテーションの実施

No.	実施日・期間	参加者	参加人数	事業内容
1	4月17日(水) 17:30～19:00	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名)	13名	①参加者自己紹介・昨年度のふり返り ②事例検討 「自己決定の尊重 その支援から学んだこと」(発表者:高知医療センター) ③学会発表に向けた検討・情報交換 ④本年度計画の確認
2	5月15日(水) 17:30～19:10	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名)	13名	①学会発表予演(発表者:高知医療センター) ②学会発表に向けた検討・情報交換 ③本年度計画・司会の確認
3	6月19日(水) 17:30～17:00	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名, 学生1名)	14名	①医療マネジメント学会報告(報告者:高知医療センター) ②日本医療社会事業学会報告(報告者:高知医療センター) ③来年度学会発表についての検討
4	7月17日(水) 17:30～19:10	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名, 学生1名)	14名	①事例検討 「キーパーソンとの専門的援助関係が形成できなかったケース」 (発表者:高知医療センター)
5	8月21日(水) 17:30～17:00	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名, 学生1名)	10名	①事例検討 「自己決定の尊重」(発表者:高知医療センター)
6	9月18日(水) 17:30～18:50	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名)	10名	①日本医療社会福祉学会報告 「社会福祉の研究動向について」(報告者:鈴木裕介助教)
7	10月16日(水) 17:30～17:00	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名, 学生1名)	9名	①事例検討 「筋金入りのトラブルメーカーから学んだこと」(発表者:高知医療センター)
8	11月20日(水) 17:30～17:10	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名)	33名	①看護との共同事例検討会:がんCNSとMSWの担当した事例 「終末期がん患者の在宅移行支援～院内外における多職種の連携～」 「在宅サポートチーム合同デスクカンファレンス」 (発表者:高知医療センター)
9	12月18日(水) 17:30～19:10	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名)	12名	①課題研修 「社会的孤立をめぐって」(報告者:山村靖彦准教授)
10	1月15日(水) 17:30～18:50	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名, 学生1名)	11名	①事例検討 「関わりが不十分だった事例から学んだこと」(発表者:高知医療センター)
11	2月19日(水) 17:30～18:50	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員2名, 学生1名)	14名	①事例検討 「若年がん患者支援の難しさ」(発表者:高知医療センター)
12	3月19日(水) 17:30～19:00	ソーシャルワーカー 看護師 事務 社会福祉学部 (教員1名)	12名	①次年度の看護・社会福祉連携部会事業計画の確認 ②本年度の振り返り

総務・予算委員会

長澤紀美子・宮上多加子

総務委員会・予算委員会として行った業務は、下記のとおりである。

1. 活動内容

① 教授会の資料準備及び運営

- ・ 議題・資料の整理、議事メモの作成等

② 福祉実習支援室、社会調査実習室等施設・備品の整備（情報処理部会関係含む）

- ・ 福祉実習支援室は室内の仕切りを移動してレイアウトを変更したため、学生が利用しやすい雰囲気になった。また、看護福祉棟の社会調査実習室についても、演習用の講義室として利用できるように、学部予算の残額を活用して机とイスの入れ替えを行った。社会福祉学部棟の102講義室・2階学生自習室・観察室・グループワーク実習室については、大学事務と協力して机とイスの入れ替えを行った。学部事務職員の協力をえて、社会福祉学部棟E414（教材作成室）のレイアウトを変更し、使用しやすいように整備した。
- ・ 社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピー代充当分として、昨年度より年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保を行った。
- ・ 4回生の国試準備・卒論作成用に空きゼミ室や福祉調査実習室を自主学习室として使用できるよう整備し、使用簿で管理する体制を作った。
- ・ 学生自習室等の学部共用パソコンについて、ハードディスク管理及びウィルス対策のソフトの一括導入を継続し、メンテナンス業務の省力化を図った。

③ 学部日常事務の対応

学部事務職員の協力をえて、寄贈資料・手紙の整理、回覧などの仕事に対応した。

④ 平成24年度『社会福祉学部報』『学部パンフレット』発行

平成24（2012）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料）の冊子媒体100部を作成し、関係各所に配布するとともに、学部ホームページで公開した。また広報委員会との協力により、『高知県立大学社会福祉学部（学部パンフレット）』を一部改訂し1,200部を発行した。

⑤ 卒業生動向調査並びに卒業生を対象した各種案内の送付

実習委員会・全学キャリア支援部会・健康長寿センター委員・大学院学務と協力し、卒業生の動向調査・卒後のニーズに対するアンケート調査を行うとともに、リカレント教育講座や大学院案内等を卒業生に送付した。

⑥ 学生教育用図書・資料等の充実

- ・ 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通して定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。
- ・ 国家試験対策用図書や社会福祉に関する基礎文献等学生の教育に資する図書を選び、福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。
- ・ 福祉情報資料室で保管している卒業論文の電子化による検索・活用の利便性の向上、学生閲覧用論文資料の充実を引き続き行った。

2. **今後の課題**

教員数の増加に伴い、各委員会の役割分担の調整、教員と事務職員との業務分掌の明確化について引き続き検討していく必要がある。また、学生の定員増に伴う設備備品の整備や消耗品補充の対応等を含め、計画的な整備が課題である。同時に、自習スペースの確保や、4回生の国家試験準備のための自習室の確保等、物理的な制約が多い課題が浮上しているため、空室の有効な活用等を検討していく必要がある。さらに、大学院人間生活学研究科（修士課程）社会福祉領域の大学院生の増加に伴い、従来学部予算と一体的に運用していた大学院学生教育予算を活用し、院生のニーズを踏まえた教育環境の整備を進めていく必要がある。

国試対策ワーキンググループ

西梅 幸治

○本年度の取り組み

本年度の国試対策ワーキンググループは、西梅講師、後藤准教授、遠山講師、鈴木助教、稲垣助教、加藤助教、二本柳助教、橋本助教の計8名で構成した。

（1）4回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤国試対策勉強会実施への支援、⑥個別面談などの取り組みを行った。

月	概要	備考
4月	国家試験に関するガイダンス（4/8）	
5月	個別面談、国家試験関連参考書などの貸出開始	
6月	学内模擬試験（6/21）	
7月	学内模擬試験（7/19）	
8月	「受験の手引」解説（8/20）、国試対策勉強会下見（8/21）	
9月	「受験の手引」解説（9/19）	
10月	模擬試験（10/6）、受験対策直前web講座周知	模試（高知県社会福祉士会）
11月	社士・精士模擬試験（11/1,2）、国試対策講座	模試（福祉教育カレッジ）
12月	国試対策講座、対策講座DVD貸出、個別面談	
1月	国試対策勉強会（1/5～7）、個別面談、国試当日	
2月	自己採点集計（2/7）	
3月	合格発表（3/14）、卒後の手続きに関する説明（3/19）	

（2）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

（3）2013年度の国家試験合格率

1）社会福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
82	56	68.3%	67	51	76.1%	15	5	33.3%

[福祉系大学等ルート：受験者10人以上]

合格順位：全国11位（既卒含）、全国16位（新卒のみ）

合格基準点：84点（満点150点）

全国平均合格率：27.5%

委員会活動年度報告書（国試対策ワーキンググループ）

2) 精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
33	26	78.8%	27	23	85.2%	6	3	50.0%

〔保健福祉系大学等ルート：受験者 10 人以上〕

合格順位：全国 15 位（既卒含）、全国 20 位（新卒のみ）

合格基準点：81 点（満点 163 点）

全国平均合格率：58.3%

※社会福祉士・精神保健福祉士ともに不適切問題なし

（4）今後の課題

学部定員増と男女共学化に対応した国試対策への支援が今後も継続的に必要である。特に来年度は、男女共学となった初めての学年であり、受験に向けた多様なケースが想定される。そのため個別ではもちろん、年間の取り組みをシステム化して、可能な限り対応していきたいと考えている。

社会福祉士・精神保健福祉士 国家試験に向けての取り組み

国試対策講座について

本年度の国試対策講座では、国試の科目の中でも特に分かりにくい科目や、最新の動向を知っておく必要がある科目で、対策講座を開講してほしいという学生からの要望が強かったものを中心に、8名の先生方に12科目の講座をお願いしました。これまでの国試の出題傾向等を基に、重要なポイントを絞って講義をしてください、重点的に勉強すべき内容を捉えることができました。また、講義の内容に対応した分かりやすい資料を用意して下さっていたので、復習する際にとっても役立ちました。普段の授業とは違い、分かりにくいところをじっくりと教えて頂いたことによって、曖昧であった内容を確実な知識にすることができました。

また、対策講座は録画したものを借りることができるようになっていました。そのため聞き逃してしまった点や、体調不良等により欠席してしまった講座もDVDを見ることで受けることができました。

国試合宿について

本年度、私たちは国家試験に向けて国試合宿を高知県津野町で行いました。自宅や学校とは違った環境の中に身を置き、勉強にのみ集中しました。自分一人では分からないことも、学部の友達と話し合ったり、巡回に来ていただいた先生に質問したりと、理解するまで話し合いました。朝から深夜まで机に向かい、食事の時はみんなと一緒におしゃべりをしながら息抜きをし、勉強のペースをつかむことができました。

合宿中は多くの先生方から、お菓子や温かい飲み物などの差し入れや激励をいただきました。合宿先の津野町の方々もサポートしてくださり、色々な方々が私たちを応援して下さいていることがひしひしと伝わってきました。

合宿中に一番心強かったことは、一緒に勉強している友達の存在です。集中力が切れそうになっても、頑張っている友達の姿を見て、自分も「もっと頑張らなくては」と思うことができました。是非、後輩の皆様も合宿に参加して、みんなと一緒に勉強に取り組んでみてください。

後輩の皆さんへ

国試や就活、実習、卒論などで4回生はとても忙しくなります。すべてのことを同時に行うことは難しいと思います。自分のペースを考えて、この時期はこれに集中するなど計画を立ててみるといいかもしれません。また、本学部の先生方はとても親身になって相談に乗って下さるので、悩みや不安など些細なことでも話をしてみてください。話を聞いてもらうだけで、とても気持ちが楽になります。国試、卒論、就活をバランスよく行うのは大変ですが、成し遂げたことは、必ず将来へ繋がると思うのであきらめず最後まで頑張ってください。

国際交流

留学生との交流

2013年6月3日、5日の2日間、文化学部で学ぶ留学生を池キャンパスに迎え、「池デイ」を開催しました（受け入れ留学生：ヴェネツィア大学（イタリア）学生10名、エルムズ大学（アメリカ）学生10名、北京聯号大学旅游学院（中国）1名、文藻学院大学（台湾）2名）

学部ごとの企画に加え、2日間のガイド役学生（「相棒」）が、レクリエーションを中心とする多彩な交流の場を学生主体で企画しました。社会福祉学部では2回生介護コースによる手浴のデモンストレーションと、1回生によるレクリエーションを実施しました。



（学生の感想）

- 池デイの準備では、相棒学生のリーダーとして動く中で学年や学部の異なるメンバーとの連絡調整、情報共有が大変でした。もう少し準備期間に余裕が欲しいとも感じましたが、当日は留学生の楽しそうな顔を見ることができてとても嬉しかったです。
- 国際交流委員をやらせていただき、とても楽しく新たな視点を持つことが出来たと思います。少しの間でしたがこの出会いをこれからも大切にしていきたいと思います。
- 留学生の皆さんは話しかけるととびきりの笑顔で話してくれ、又日本の文化にふれているときの目は輝きに満ちあふれていました。私はそんな留学生さん達の姿を見るだけで笑顔になり、大きな元気、勇気をもらえました。
- 今回の国際交流で、言葉が通じなくても顔や動作でも十分にコミュニケーションがとれるということを再認識しました。社会福祉学科1回生のレクリエーションでは、みんな「言葉の壁」などを一つも感じさせない、本当に「心から通い合おうとしているのだな」と感じられるようにコミュニケーションを取っていて、とても感動しました。この国際交流を支えてくださった国際交流委員のみなさんに心から感謝したいです。
- 言葉がわからないなりに身振り手振りを交えてプライベートな話をしたり故郷の話をしました。どこの国へ行っても人を想う気持ちやなにかに感動する気持ちは一緒なんだと実感することができ、私も世界へ飛び出してみたい！と強く思いました。

マレーシア・サバ大学第1回交換留学生来学記念特別企画

2013年8月7日、青年海外協力隊員としてマレーシアの障害者就労支援に従事していた、大塚亜季さん（社会福祉学部第3期卒業生）の講演と、現在、健康栄養学部で学んでいるサバ大学からの留学生のプレゼンテーションを開催しました。



学部2回生と1回生が司会を務め、マレーシアからの留学生、国際交流と社会福祉の接点で活躍する先輩との交流を行うことができました。

学部イベント関連

障害者スポーツ大会にボランティアとして参加しました

2013年6月2日（日）、高知県立春野総合運動公園で開催された第15回高知県障害者スポーツ大会に、社会福祉学部の1回生71名がボランティアとして参加しました。

毎年開催されるこの大会は、県内から約1,300名の人々が参加しており、学生にとって障害のある方とスポーツを通じて交流する貴重な機会となっています。

小雨が降り肌寒い一日でしたが、競技運営や表彰式のサポート、駐車場案内など、学生はそれぞれの役割を一生懸命こなしていました。特にフライングディスクでは、誘導をしながら選手と交流したり、大きな声で競技を盛り上げたりと、普段とは違った学生の姿が印象的でした。



第12回高知ふくし機器展に参加しました

「第12回高知ふくし機器展」が、高知県ふくし交流プラザで6月15日（土）・16日（日）の二日間にわたって開催されました。社会福祉学部1回生を中心に78名の学生が、ボランティアとして参加しました。

全国からのたくさんの来場者がいるなかで、学生は、受付や福祉機器の体験コーナーなど、それぞれの担当部署で運営をサポートしました。また、最新の車いすや介助用品、自具などを体験しながら学ぶ貴重な機会になりました。

2回生のボランティアリーダーは、他の学校も含めた学生ボランティアの代表として開催までの準備にも携わり、当日も学生ボランティアの統括役として活躍しました。



グローバルクラブ

私たちグローバルクラブは、「国際交流」「地域交流」「ボランティア」を3本柱として活動しているサークルです。みさとフェアなどの地域のイベントや、ボランティアに参加しています。

そのなかでも、グローバルクラブの活動の中心を担っているのが、よさこいチーム「高知県立大学グローバルクラブ J a p a r e a n」の運営です。このチームはグローバルクラブのメンバーがメインスタッフとなり、チームコンセプトの企画・立案から振りづくり、地方車の製作まで幅広い準備を行い、よさこい祭りの出場を目指します。今年度も、多くの方々からのご支援・ご協力に支えられながら、よさこい祭りまで準備を進めていきました。

2013年度のグローバルクラブ J a p a r e a nは「全力笑舞」というコンセプトで活動を行いました。今年は、よさこい祭りの開催が60回目という記念すべき年であり、J a p a r e a nが今までの伝統を尊重しながらも、過去を越えるような素晴らしい「舞」を表現し、チームとしての団結力で魅せるとともに、一人ひとりが最高の「笑顔」でよさこい祭りを楽しんでほしいという思いが込められています。また、「笑顔」からあふれる私たちのエネルギーや、よさこいへのまっすぐな気持ちを感じてほしいという思いも込めたコンセプトとなっています。そしてこのコンセプトのもと、マレーシアからの2名の留学生と高知県立大学の在大学生や卒業生、また他大学や専門学校の学生、地域の社会人の方々と共に、本祭りに出場し、無事2日間を踊りきることができました。明るい笑顔が溢れ、忘れられない素敵な夏の思い出となりました。

J a p a r e a nの活動を通して、自分たちでチームを結成し、一つのものを作り上げていくことがいかに大変なことかを感じ、メインスタッフを務めるなかで、迷い、悩むことの多い日々でした。代々受け継いできた伝統の重みを大切にしたいという思いと、今年度のコンセプト「全力笑舞」にふさわしいチーム作りを、という思いの間で、何度も悩みました。そのような状況でも私たちがくじけずに活動を続けることができたのは、仲間、OGの先輩方、後輩たち、顧問の先生など、多くの支えてくれる人がいたからだと思います。チームを結成するなかで多くの方に出会えたことが何よりも大切な財産となりました。これからチームを主となって運営していく後輩たちも、支えてくれる人たちへの感謝を忘れず、辛くて苦しいことから逃げずに向き合っていってほしいと思います。

最後に、いつもグローバルクラブの活動にご理解とご支援をいただき、大変感謝しております。これからも高知県立大学の1サークルとして、大学や地域に根ざした活動を進めていきたいと思っております。どうぞご支援・ご指導のほどよろしくお願い致します。



太 鼓 部

今年度は、1回生9名で活動しました。太鼓部創設以来初めてとなる男子部員（2名）が入部し、これまでも増して迫力のある演奏に磨きをかけています。2・3回生の部員がいないため、すでに引退をしている4回生が、多忙な中練習を見に来てご指導くださいました。練習は週に1～2回池キャンパスの体育館で行っています。太鼓部創設時に比べると、社会福祉学部をはじめ大学全体の学生数が増え、キャンパスの増設やサークルの多様化・増加など太鼓部を取り巻く環境が大きく変化しました。体育館は学内のサークルだけでなく外部団体が利用されることもあり、練習場所・時間の確保が年々難しくなっています。体育館が使用できない時には、大学のある池地区の公民館をお借りして練習しています。

主な活動としては、紅葉祭・卒業式の学校行事に参加して太鼓を演奏しました。また、三里祭りをはじめとした地域のお祭りごとはもちろんのこと、福祉施設の訪問など太鼓の演奏を通して地域の人たちと交流しました。

一つの曲を仕上げる際に、口伝（くでん：太鼓の演目には楽譜がなく、代々先輩から口伝で教えてもらっている）を覚えるだけでなく、叩き方にも磨きをかけ「魅せる」演奏ができるように意識しています。そのために本番まで何度も話し合い、練習を重ねています。そういったことを乗り越えて曲が仕上がった時の喜びや達成感は大きく、同時に部員同士の絆が深まっていくことが感じられます。また、訪問先の福祉施設や地域のお祭りでは多くの方に「来年も楽しみにしているね」と喜んでいただいています。地域との交流から私たちが得るものは多く、日々の練習の励みとなっています。



太鼓部では、楽しく太鼓を叩きながら様々な経験をすることができ、より豊かな学生生活を送ることができます。さらにそれらの経験は大学を卒業した後も必ず役に立ちます。太鼓部の良さをより多くの方に知ってもらい、これからも皆で頑張っていきたいです。

池手話サークル

私たち、池手話サークルは週1回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容は、指文字の練習をしたり、日常で使えるような会話文を考え、手話の本を中心に調べて学んだり、発表会に向けた手話コーラスの練習をしています。また、クリスマス会などを開いて、手話を用いた簡単なゲームを行いながら、楽しく手話を学んでいます。

手話コーラスを披露するのは、11月の紅葉祭、3月に行われた耳の日記念集会の主に2回です。今年度の紅葉祭は「となりのトトロ」、「夏色（ゆず）」に挑戦し、観客の皆さんにも一緒に手話をとおして参加してもらいました。耳の日記念集会では、高知県聴覚障害者協会青年部の方々と一緒に練習を行い、ステージに立ちました。また青年部の方々は、毎年交流会を行っており、今年度はソフトバレーボール、昼食を取りながらの雑談、耳の日に向けた練習をして楽しみました。青年部の方々との交流は、年々回数が増えていて、日常的に手話を用いている皆さんとの関わりから、多くの経験をさせていただいています。

手話サークルとして活動していくなかで、多くの方々との出会いがあり、そして多くの学びがありました。今後も手話を通したつながりを大切にして活動していきたいと思えます。

また同時に、サークル規模の拡大もできればと考えています。現在は、社会福祉学部の学生が中心ですが、今年度から健康栄養学部・看護学部の学生も新たに入部しました。様々な場所で手話を披露していくことで、手話に興味を抱く学生が増えていくよう、精一杯頑張っていきますので、今後の活動を温かく見守って頂きたいと思えます。よろしくお願ひします。



いけとべ！

私たちは、日本で使われなくなった車いすを整備し海外旅行をする旅行者に手荷物として託し、発展途上国の病院や施設に送り届ける活動を行っている認定 NPO 法人「飛んでき！車いす」の会の活動に感銘を受け、「いけとべ！」として活動しています。

「いけとべ！」は、「日本で使われなくなった車いすを高知女子大学池キャンパスから発展途上国へ飛ばそう！」という思いから、2006年に結成されたサークルです。



2013年度は、6月に高知ふくし機器展にて食べ物ブースを担当しました。毎年カレーを作って売っていましたが、今年は手作りの焼きそばとお茶を販売し、好評で完売しました。

今年度は、車いすを発展途上国に送り届けることができず、車いすのメンテナンスのみの活動となってしまいました。来年度は、車いすを発展途上国へ飛ばすということを目指し、学習会等を計画しながら楽しく活動を継続させていきたいと思っています。

現在部員数は4回生2名、3回生4名の計6名で、学生会館2階フリースペースにて車いすのメンテナンス等を中心に活動しています。今年度は昨年以上に学習会等の企画を取り入れながら、一台でも多くの車いすを飛ばせるよう、充実した活動を行っていききたいと思います。



イケてるあいあい

イケてるあいあい（通称イケあい）は、2011年に起こった東日本大震災を受け、来る南海地震に備えるということを目的としてつくられた災害ボランティアサークルです。

今年度は、イケあい地域災害ボランティアセンターを立ち上げ、黒潮町や三里地区の住民の方々と、避難所の視察や地域のお祭り、地区運動会等に参加させてもらうことで交流を図りました。その際には、東北の物産品を使った食事を振る舞うブースを担当させていただきました。

ゴールデンウィークには、県内外の学生を招待し、「未だ被災はしていないが未来の被災地である高知を知ってもらおう」という意味で企画した未災地ツアーを行いました。県内の様々な場所を視察して回り、地震や津波についてより身近なものとして深く考えることができました。そして今回、その活動で防災甲子園にて最優秀賞を頂くことができました。

また3月には、岩手県立大学主催のコミュニティ支援力研修会が本学で開催された際には、イケあいのメンバーもスタッフとして参加し、県内外の学生約50人で二泊三日の研修を行いました。多くの学生と一緒に高知県をまわって災害や防災について学び多くの刺激を受けることができました。

その他にも、防災の啓発活動についても力を入れていこうと考えています。学内の学生に対する防災啓発活動についても考えており、防災に対する知識を提供できるようなイベントの企画を考えています。

現在イケあいは社会福祉学部・看護学部・健康栄養学部・文化学部と全ての学部の学生がメンバーとして参加しています。それぞれの学部の特色を活かした活動を行っていきたいと思います。また、これからも学生が、自分の身は自分で守ることができるような高い防災意識を持ってもらえるよう、様々な形で活動を続けていきたいと思っています。

ハモ☆イケ

ハモ☆イケは池キャンパスの道路向かい側にある医療センター内の病院ボランティアグループの「ハーモニーこうち」の一員としてボランティア活動を行うことを目的としたサークルです。この「ハーモニーこうち」と「池キャンパス」からサークル名が作られました。

今年度のメンバーは社会福祉学部の2回生8名、1回生23名、健康栄養学部の3回生が41名の合計72名で構成されていました。社会福祉学部の1回生のメンバー数が増え、かつ健康栄養学部の3回生は夏期の病院配属実習に向けた事前学習を目的に新たなメンバーとなりました。

同サークルに入会後は、看護学部の先生の指導のもと車椅子、視覚障害者の手引きの研修と医療センターの医療関係の従事者の方によるレクチャーを受けます。今年度はメンバー数が多かったため、研修を2回、レクチャーを3回に分けて行いました。

院内ボランティアは正面玄関や花壇の掃除、入院案内、図書サービス、小児科での見守りや作業、バザーやクリスマスシーズンに向けた各種イベントの手伝いなどさまざまです。それぞれのボランティアは活動内容、時間帯、時期が異なるため、メンバーの予定に合わせて各自で積極的にボランティアに行くという個人参加型のサークルです。そのため、集団としての活動というよりも個人あるいは数人の規模でのサークル活動となっています。個人の予定に合わせてたり、希望するボランティア活動への参加ができたりと、個人のペースで無理なく院内貢献が可能であるとともに、この経験からの学習を獲得することができます。

医療センター内でのレクチャーが行われるときに、レクチャーの予定を忘れていた、欠席報告をしなかったなどのメンバーが数人おり、多忙の中時間を割いて準備してくださった担当者の方にご迷惑をおかけしたことがありました。また、個人の意志が伴う参加になるため、サークルに入会しても、授業、アルバイト、その他のサークル等が生活の中心になっていき、ボランティアにほとんど参加したことがないというメンバーもいます。それに、サークルの代表を通してボランティアの参加申し込みをせずに自由に活動できる取り組みもあるため、メンバー全員の活動状況を把握することが困難となっています。

以上の課題から、次年度に向けて「ハモ☆イケ」の体制を整えていきたいと考えています。学校内での一サークルではなく、外部の医療機関との連携と協力を得ながらの活動を展開しているため、メンバーひとり一人がボランティアに対する責任をもつことをかかげ、意識付けを行います。また、メンバー全員の活動状況を把握するため、これまで報告が不要だった活動を含め、ボランティアに参加する際は必ず代表に連絡することを義務付けし、完全報告制にします。また、この活動は個人での自由な参加になっているため、ボランティアをほとんどしていないという状況に対して、各々、年間、月別目標をたてて活動を開始するようにして参加を促進するようにしたいと思います。

かんきもん

こんにちは！ボランティアサークル「かんきもん」です。かんきもんは4回生 15 人、3回生 12 人、2回生 27 人、1回生 14 人、計 68 人で「農家・それらを含む地域を応援したい」というコンセプトのもと活動しています。

現在、かんきもんは「援農隊」の他にも「YCPK」「傾聴」「学習支援サポーター」の活動を行っています。

「援農隊」は、毎年恒例の 11 月頃に参加させていただいている柚子の収穫のボランティアです。収穫の際にお手伝いがほしいという方のいらっしゃる山間部に行っています。柚子収穫の作業は、首や肩がこったり、筋肉痛になったりと体力を使いますが、それ以上に、農家のおじいちゃんやおばあちゃん、地域の方々、自然とふれあう喜びや楽しさの方が大きく、学生生活の中でも忘れられない思い出になります。

「YCPK (Young Crime Prevention in Kochi ; 若者防犯ボランティア in 高知)」では、県警の方の協力のもと防犯に関するイベントへの参加や小学生の下校の見守り活動、防犯パトロール、ゴミ拾い、自転車整理等を行い地域の活性化や防犯意識の向上を目指し、活動しています。

「傾聴」では、グループホームや一人暮らしの高齢者のお宅を定期的に訪問し、高齢者とコミュニケーションを通して交流を図っています。

「学習支援ボランティア」では、児童養護施設等の施設に訪問し、子どもたちの宿題などの学習面での支援を行うボランティアです。

2013 年度は、学習支援ボランティアが新しく始まり、活動の幅が広がった年になりました。2014 年度もメンバーにはかんきもんでのボランティアを通じて、地域や高齢者、児童など自分の興味・関心のある分野を発見し、将来の進路を考える上での良い経験を得てもらいたいと思います。



平成25年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

教員氏名	題 目
黒田 しづえ	手浴がBPSDのある認知症高齢者に与える影響についての一考察
	高知市におけるかみかみ百歳体操の現状と普及へ向けたい考察
	障害者支援施設における生活支援員の人間関係ストレス軽減についての研究
	ユニットケア実施施設におけるプライバシーの保護とリスクに関する一考察
	補助犬の受け入れと啓発活動の関係性における一考察
	高齢者施設における介護職員の意識に関する一考察 －認知症高齢者のおしゃれについて－
杉原 俊二	通常学級に在籍する発達障害児への支援についての一考察 －スクールソーシャルワーカーと教師の連携による支援－
	現代の非行少年に対する支援の一考察 －背景要因に着目して－
	母子生活支援施設の支援の変遷と現在の支援 －DV被害を受けた母子に着目して－
	母子保健事業による児童虐待の予防 －母子保健担当者のインタビュー調査を通して－
	児童養護施設における性教育についての考察
	地域における親子支援のあり方 －要保護児童のいる家庭への支援に着目して－
鈴木 孝典	精神障害を持つ高齢者の生きがいと役割形成との関係性に関する一考察 －福祉的就労を重視する人に焦点を当てて－
	精神障害を抱える母親に対する支援の課題 －障害を持つ乳幼児を抱えた世帯に着目して－
	要養護児童と保護者以外の養育者とのアタッチメント形成における課題 －児童の発達課題の達成に着目して－
	精神障害の理解を促進する普及・啓発活動の継続要因
	障害をもつ子どもの育児困難に関する一考察 －精神障害をかかえる母親の支援に着目して－
	ホームレスの居場所づくりに関する一考察
田中 きよむ	地域住民の防災活動における活性化の促進要因と防災意識・行動の変容プロセス
	高齢者のコミュニケーションの内容と手段・方法に関する一考察 －都市的地域と中山間地域の市街地に焦点をあてて－
	中山間地域の医療に関する高齢者の満足度における一考察 －高知県内の地域調査を踏まえて－
	高等学校における福祉教育の現状と可能性
	チームアプローチにおける医療ソーシャルワーカーの役割に関する研究 －多職種の認識の共有化に焦点を当てて－
長澤 紀美子	中山間地域のあったかふれあいセンターを拠点としたコミュニティソーシャルワーク実践 －地域福祉コーディネーターに着目して－
	高等学校における軽度発達障害のある生徒への支援について －障害理解への働きかけに焦点をあてて－
	高次脳機能障害を伴う中途障害者に対するMSWの支援に関する研究 －回復期リハビリテーション病棟における退院支援に着目して－
	知的障害者の就労と勤労収入が生活に及ぼす影響
	貧困問題の子どもへの心理的影響とスクールソーシャルワーカーの支援について
	急性期病院の退院援助における「自己決定を尊重する支援」の研究 －医療ソーシャルワーカーの意識を通して－
西内 章	知的障害者の就労移行支援事業における「本人が希望する就労」に関する研究
	急性期病院における医療ソーシャルワーカーの専門的力量に関する一考察 －Schön, D. A.の反省的実践家からの検討－
	急性期病院におけるチーム医療のモデルに関する研究 －マルチディシプリナリーモデルにおける医療ソーシャルワーカーの役割に着目して－
	知的障害者の生活における就労プログラムの意義に関する研究
	急性期病院の退院援助における「自己決定を尊重する支援」の研究 －医療ソーシャルワーカーの意識を通して－
	妊産婦の不安に対する生活支援に関する一考察 －ゆりかご事例の検討を通して－

西梅 幸治	医療ソーシャルワークにおけるチームアプローチの促進に関する研究 －高齢者の退院支援に着目して－
	高齢者レクリエーションの展開過程に関する研究 －ケアハウス利用者への実践事例から－
	知的障害のある子どもを持つ母親の子育て意識に関する研究 －養育を通じた子どもの発達への影響に焦点をあてて－
	小地域福祉活動に向けた住民の主体形成プロセスに関する研究 －社会福祉協議会の支援事例に着目して－
	在宅所における高齢者の生活の質向上に関する研究 －A宅老所の取り組みに着目して－
	若者に対する自殺予防の意義と課題 －ソーシャルキャピタルとの関連から－
鳩間 亜紀子	児童福祉分野の実習生がうけたリアリティショックの実態
	高齢者の呼び寄せに関する課題とその支援
	介護予防を目的とした場への参加・継続を促す方策や支援
	高齢者施設が行う災害を想定した実際の備え
	レクリエーション実施において、高齢者施設の職員がおこなう 利用者の生活背景や身体的・心理的特徴への配慮
福間 隆康	緩和ケアチームにおける医療ソーシャルワーカーの役割 －全人的苦痛と多職種チームワークからの考察－
	在宅療養支援診療所におけるMSWの支援について －患者の在宅療養中に着目して－
	里親による虐待が生じる要因に関する一考察 －里親研修に着目して－
	組織間関係論からみる災害ボランティアセンターの協働体制に必要な要因について －震災時の社会福祉協議会と災害NPOの活動－
	中山間地域における福祉活動組織についての一考察 －住民による福祉活動の継続要因の検討－
丸岡 利則	日本の福祉教育の現状と課題 －シティズンシップ教育に焦点を当てて－
	子育て世代のがん患者に対する家族支援 －告知に焦点を当てて－
	生活保護からの自立 －就労支援を中心に－
	児童養護施設におけるライフストーリーワークの実践と有効性 －日英の国際比較－
宮上 多加子	介護職員が行う清潔に関わる援助の意識と実態
	高齢者福祉施設における防災対策の現状と介護福祉士の意識
	高齢者の安静が引き起こす身体機能の低下と機能回復に向けた介護職のかかわり
	特別養護老人ホームの労働環境に関する意識 －従来型・ユニット型の介護職員に対する調査から－
	大学生のボランティアに関する意識
三好 弥生	車いすユーザーに着目した誰もが住みやすいまちづくり －高知市のバリアフリーの更なる推進を目指して－
	高齢化・重度化が進行する要介護高齢者への生活支援に関する研究 －自立支援に着目して－
	急性期病院における医療ソーシャルワーカーによる 終末期がん患者・家族に対する退院援助の方法に関する研究
	療養病床の変遷と医療ソーシャルワーカーの役割 一考察
	車いすユーザーに着目した誰もが住みやすいまちづくり －高知市のバリアフリーの更なる推進を目指して－
	高齢者の摂食えん下障害に対する支援に関する研究
	重症心身障害児者の福祉レクリエーションに関する研究 －レクリエーション活動の促進要因に着目して－
山村 靖彦	中山間地域の社会資源の活用方法における一考察 －西土佐村の特長と課題を通して－
	「子どもの貧困」への対応 －A市における「学習支援」の現状と課題－
	防災教育の必要性とその在り方についての一考察 －福祉教育の視点から－
	地域福祉における近助方の必要性と促進方法についての一考察 －近隣住民の助け合い意識に着目して－
	中山間地域における住民自治の在り方に関する一考察 －久万高原町面河地区のソーシャル・キャピタルの再構築に向けて－

編集後記

社会福祉学部報第16号をお届けします。

平成25年度は、初めて1回生から4回生まで全学年が定員拡充後の70名となりました。共学化への移行期の最終年度となり、物理的な設備の制約など対応すべき様々な課題がありますが、学生の伸び伸びとした気風や前年度までの水準とほぼ変わらない国家試験合格率の高さからは、学生間に本学部の伝統が継承されているともいえます。従来からの特色であるきめ細やかな少人数制教育の良さを継承しつつ、定員増に伴う学生の多様化に即した教育体制の整備が継続的な課題と考えております。

また本学部は、開設以来、地域の関係機関や多くの関係者の皆様方のご支援ご協力のもと、県内外に活躍する社会福祉専門職を養成するという重要な使命を果たし、多くの卒業生が様々な現場で活躍し、実習指導者や職能団体のリーダーとして学部生の良き模範となっております。今後もより良い教育体制や専門職養成のあり方を模索しつつ、さらなる工夫を間断なく続けていきたいと思っております。

今後も社会福祉学部の教育にご理解ご支援をいただきたく、本学部報を教員・学生の活動記録として多様な場でご活用くださいますよう、よろしく願いいたします。

社会福祉学部総務・予算委員会 長澤紀美子・宮上多加子

高知県立大学社会福祉学部報

第16号

発行日：2014年6月1日

発行者：宮上 多加子（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部
〒781-8515 高知県高知市池2751-1
Tel 088-847-8700（大学代表）
Tel 088-847-8757（学部代表）
Fax 088-847-8672（学部専用）